

## 5 障害のある人の人権について

### 1. 障害のある人の人権が尊重されていないと思うこと

問 13 障害のある人の人権に関する事柄で、人権が尊重されていないと思うのはどのようなことですか。次の中から3つ選んでください。(複数回答)

#### 【設問の趣旨】

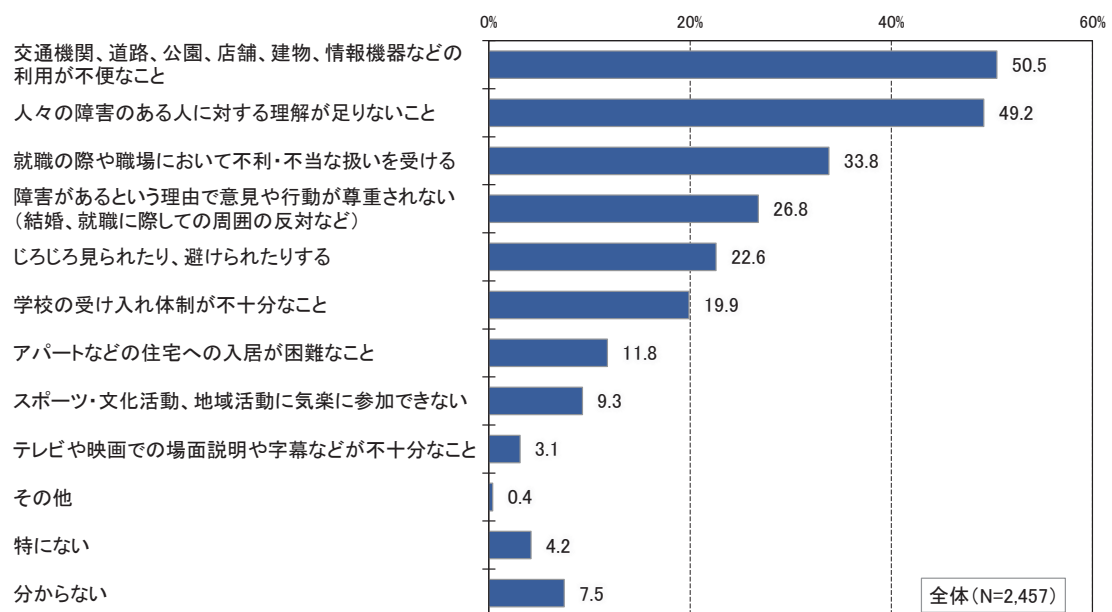
わが国では、障害のある人を含む全ての人々にとって住みよい社会づくりを進めている。平成28年(2016年)4月には「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、すべての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく相互に人格と個性を尊重し合いながら、共生する社会の実現を目指している。

こうした現状を踏まえ、障害のある人の人権に対する市民の問題意識を知る設問である。

#### 【全体】

障害のある人の人権が尊重されていないと思うことについてたずねたところ、全体では「交通機関、道路、公園、店舗、建物、情報機器などの利用が不便なこと」をあげた人の割合が50.5%で最も高く、次いで「人々の障害のある人に対する理解が足りないこと」(49.2%)の順で、この2項目が他に比べて高くなっている。以下、「就職の際や職場において不利・不当な扱いを受ける」(33.8%)、「障害があるという理由で意見や行動が尊重されない(結婚、就職に際しての周囲の反対など)」(26.8%)、「じろじろ見られたり、避けられたりする」(22.6%)、「学校の受け入れ体制が不十分なこと」(19.9%)と続く。なお、「特にない」と答えた人は4.2%、「分からない」と答えた人は7.5%となっている。

図表 2-37 障害のある人の人権が尊重されていないと思うこと



#### 【性・年齢別】

性別にみると、全体の傾向と同じく男女いずれも「交通機関、道路、公園、店舗、建物、情報機器などの利用が不便なこと」（男性 49.0%、女性 52.3%）が最も高く、次いで「人々の障害のある人に対する理解が足りないこと」（男性 48.4%、女性 50.1%）の順となっている。年齢別にみると、男性は 20～29 歳及び 50 代以上は「交通機関、道路、公園、店舗、建物、情報機器などの利用が不便なこと」が最も高く、男性 30～39 歳は「就職の際や職場において不利・不当な扱いを受ける」（40.3%）が、男性 40～49 歳は「人々の障害のある人に対する理解が足りないこと」（52.9%）が、それぞれ最も高くなっている。なお、男性 60～69 歳は「人々の障害のある人に対する理解が足りないこと」（51.7%）が「交通機関、道路、公園、店舗、建物、情報機器などの利用が不便なこと」（52.8%）と同程度の割合となっている。一方、女性は 30～39 歳及び 50 代以上は「交通機関、道路、公園、店舗、建物、情報機器などの利用が不便なこと」が最も高く、女性 20～29 歳及び 40～49 歳は「人々の障害のある人に対する理解が足りないこと」が最も高くなっている。なお、女性 50～59 歳は「人々の障害のある人に対する理解が足りないこと」（50.4%）が「交通機関、道路、公園、店舗、建物、情報機器などの利用が不便なこと」（51.6%）と同程度の割合となっている。

#### 【居住年数別】

居住年数別にみると、順位は異なるものの、いずれも全体の傾向と同じく「交通機関、道路、公園、店舗、建物、情報機器などの利用が不便なこと」と「人々の障害のある人に対する理解が足りないこと」の割合が他の項目に比べて高くなっている。

#### 【居住地区別】

居住地区別にみても、順位は異なるものの、いずれの地区も全体の傾向と同じく「交通機関、道路、公園、店舗、建物、情報機器などの利用が不便なこと」と「人々の障害のある人に対する理解が足りないこと」の割合が他の項目に比べて高くなっている。

図表 2-38 障害のある人の人権が尊重されていないと思うこと（性・年齢別、居住年数別、居住地区別）

単位：%		サンプル数	建物、情報機器などの利用が不便なこと	交通機関、道路、公園、店舗、人が足りないこと	人々の障害のある人に対する理	就職の際や職場において不利・不当な扱いを受ける	職に際しての周囲の反対など	障害があるという理由で意や行動が尊重されない（結婚、就	たりする見られたり、避けられ	学校の受け入れ体制が不十分な	困難なこと	アパートなどの住宅への入居が	スポーツ・文化活動、地域活動に気楽に参加できない	テレビや映画での場面説明や字幕などが不十分なこと	その他	特にな	分からない	無回答
全体		2,457	50.5	49.2	33.8	26.8	22.6	19.9	11.8	9.3	3.1	0.4	4.2	7.5	1.9			
性・年齢別	男性全体	979	49.0	48.4	35.5	29.0	22.5	18.3	12.2	9.8	2.5	0.3	5.0	6.8	1.7			
	20～29歳	77	44.2	41.6	33.8	33.8	35.1	15.6	9.1	7.8	6.5	-	2.6	7.8	1.3			
	30～39歳	77	39.0	37.7	40.3	29.9	32.5	20.8	11.7	10.4	1.3	-	9.1	5.2	-			
	40～49歳	155	40.6	52.9	37.4	30.3	27.1	20.0	9.7	9.0	3.2	0.6	5.8	4.5	0.6			
	50～59歳	173	54.9	48.6	38.7	31.8	22.0	22.0	17.3	8.7	1.7	-	4.0	3.5	2.3			
	60～69歳	271	52.8	51.7	33.6	28.0	18.5	17.3	9.6	10.0	1.8	0.4	4.8	9.2	1.5			
	70歳以上	222	50.9	47.3	33.8	24.8	16.2	15.8	14.0	11.7	2.3	0.5	5.0	8.6	3.2			
	女性全体	1,418	52.3	50.1	32.9	25.5	23.1	21.2	11.7	9.2	3.5	0.4	3.5	7.6	1.9			
	20～29歳	116	41.4	55.2	46.6	30.2	37.1	19.0	10.3	11.2	8.6	-	0.9	6.0	-			
	30～39歳	156	51.3	50.6	41.0	28.2	32.1	23.7	11.5	10.9	5.8	-	1.9	5.8	0.6			
40～49歳	248	48.8	54.8	34.7	29.8	28.6	26.6	10.5	8.9	5.2	-	1.2	5.6	0.8				
50～59歳	250	51.6	50.4	36.8	27.6	22.8	26.0	9.2	9.6	2.0	1.2	4.4	6.0	1.6				
60～69歳	318	64.8	51.3	27.7	21.4	21.4	20.8	13.5	7.5	0.6	0.3	2.2	7.2	1.3				
70歳以上	321	47.4	43.0	24.9	21.5	11.2	14.0	13.4	9.3	3.4	0.3	7.5	11.8	5.0				
居住年数別	3年未満	81	35.8	54.3	34.6	25.9	35.8	16.0	9.9	7.4	6.2	-	4.9	7.4	-			
	3～5年未満	46	43.5	52.2	47.8	28.3	6.5	30.4	15.2	13.0	6.5	-	-	10.9	-			
	5～10年未満	92	51.1	46.7	37.0	25.0	37.0	20.7	9.8	6.5	-	-	7.6	6.5	-			
	10～20年未満	206	46.1	48.5	43.2	34.5	27.2	20.4	10.7	7.3	3.4	0.5	2.4	8.3	2.4			
	20年以上	2,002	52.0	49.5	32.7	26.1	21.3	19.9	12.1	9.8	3.0	0.4	4.1	7.2	2.0			
居住地区別	門司区	235	51.5	43.8	31.9	24.7	20.4	22.1	11.5	7.2	3.4	0.4	3.0	8.5	3.4			
	小倉北区	458	50.4	51.5	31.7	29.3	27.7	17.9	14.0	10.0	4.4	-	3.9	6.3	2.2			
	小倉南区	517	49.9	51.1	34.6	24.4	20.5	21.1	11.0	9.9	3.1	-	3.7	7.2	2.1			
	若松区	222	52.7	54.5	35.1	23.4	23.4	15.8	8.1	7.2	1.8	-	2.7	6.8	0.5			
	八幡東区	183	44.3	45.9	36.1	29.0	18.0	20.2	15.8	10.4	2.2	1.1	5.5	9.3	2.7			
	八幡西区	645	51.5	47.8	36.4	29.0	21.9	21.4	11.9	9.9	2.3	0.8	5.4	6.7	1.6			
	戸畑区	145	52.4	51.0	25.5	21.4	22.8	22.1	11.0	10.3	4.8	-	4.8	9.7	0.7			

【人権問題への関心度別】

人権問題への関心度別にみると、『関心がある』派、『関心がない』派の男女いずれも「交通機関、道路、公園、店舗、建物、情報機器などの利用が不便なこと」と「人々の障害のある人に対する理解が足りないこと」をあげた人の割合が他の項目に比べて高くなっているものの、『関心がある』派の方が『関心がない』派よりも割合は上回っている。

図表 2-39 障害のある人の人権が尊重されていないと思うこと（人権問題への関心度別）

単位：%		サンプル数	建物、情報機器などの利用が不便なこと	交通機関、道路、公園、店舗、建物が足りないこと	人々の障害のある人に対する理解が足りないこと	就職の際や職場において不利・不当な扱いを受ける	職に就く際の周囲の反対など	障害があるという理由で意見や行動が尊重されない（結婚、就労に際しての周囲の反対など）	じろじろ見られたり、避けられたりする	学校の受け入れ体制が不十分な	学校のこと	アパートなどの住宅への入居が困難なこと	スポーツ・文化活動、地域活動に気楽に参加できない	幕などが不十分な	テレビや映画での場面説明や字幕などが不十分な	その他	特にな	分らない	無回答
全体		2,457	50.5	49.2	33.8	26.8	22.6	19.9	11.8	9.3	3.1	0.4	4.2	7.5	1.9				
人権問題への関心度別	関心がある	1,909	53.6	52.5	36.1	28.8	24.7	21.6	12.2	9.5	3.3	0.5	2.5	5.3	1.4				
	男性	726	51.7	51.7	38.3	30.6	25.2	20.1	12.7	10.5	2.3	0.4	3.3	4.1	1.5				
	女性	1,140	55.4	53.4	34.9	27.8	24.7	22.8	12.0	9.0	3.9	0.4	1.9	5.7	1.3				
	その他	6	16.7	33.3	16.7	50.0	16.7	16.7	-	33.3	16.7	-	16.7	-	-				
	関心がない	514	40.3	38.1	26.5	20.0	15.8	14.4	10.7	8.2	2.3	-	9.9	15.8	2.1				
	男性	245	42.0	39.2	28.2	24.9	14.7	13.1	10.2	7.8	2.9	-	9.8	14.7	1.6				
	女性	253	39.9	37.2	25.3	16.2	17.0	15.4	11.1	9.1	2.0	-	9.5	16.2	2.4				
	その他	4	25.0	50.0	-	-	25.0	-	25.0	-	-	-	-	25.0	25.0	-			

## 2. 障害のある人の人権を守るために必要だと思うこと

問 14 障害のある人の人権を守るために、必要なことはどのようなことだと思いますか。次の中から3つ選んでください。(複数回答)

### 【設問の趣旨】

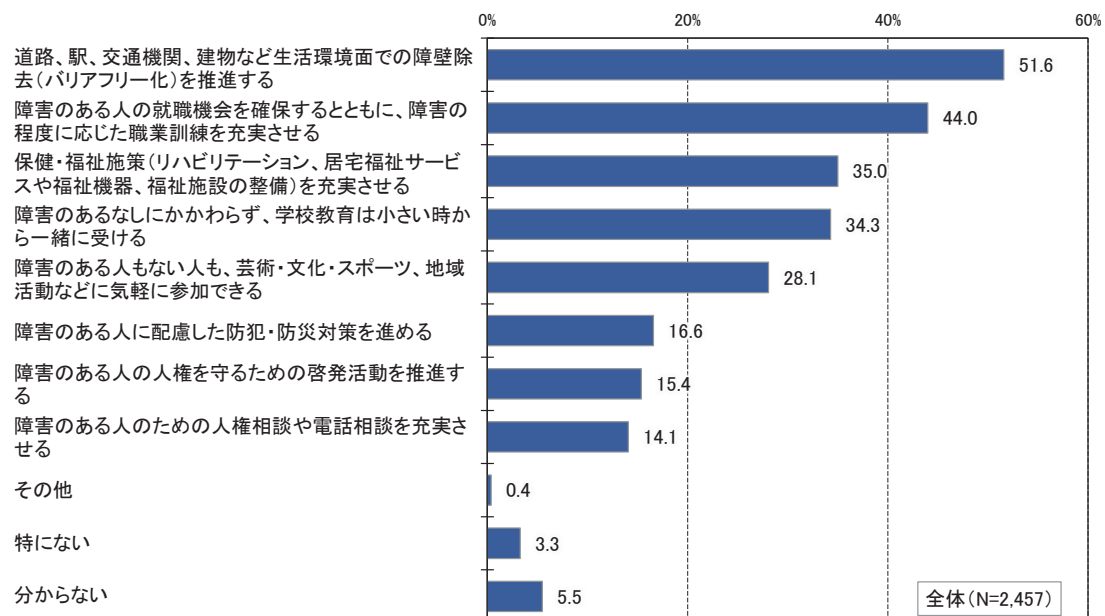
前問（問 13）では、障害のある人の人権が尊重されていないと思われる事項から、市民の問題意識がどこにあるのかをみた。ここでは、障害のある人の人権を守るために必要なことをたずねた。

選択された内容を見ることによって、市民がそれらの問題解決には何が必要かと考えているのかを知るための設問である。

### 【全体】

障害のある人の人権を守るために必要だと思うことについてたずねたところ、全体では「道路、駅、交通機関、建物など生活環境面での障壁除去（バリアフリー化）を推進する」（51.6%）をあげた人の割合が最も高く、次いで「障害のある人の就職機会を確保するとともに、障害の程度に応じた職業訓練を充実させる」（44.0%）、「保健・福祉施策（リハビリテーション、居宅福祉サービスや福祉機器、福祉施設の整備）を充実させる」（35.0%）、「障害のあるなしにかかわらず、学校教育は小さい時から一緒に受ける」（34.3%）、「障害のある人もない人も、芸術・文化・スポーツ、地域活動などに気軽に参加できる」（28.1%）などの順となっている。なお、「特にない」と答えた人は3.3%、「分からない」と答えた人は5.5%となっている。

図表 2-40 障害のある人の人権を守るために必要だと思うこと



### 【性・年齢別】

性別にみると、全体の傾向と同じく男女いずれも「道路、駅、交通機関、建物など生活環境面での障壁除去（バリアフリー化）を推進する」（男性 48.5%、女性 54.4%）をあげた人の割合が最も高くなっている。年齢別にみると、男性は 40 代までは「道路、駅、交通機関、建物など生活環境

面での障壁除去（バリアフリー化）を推進する」と「障害のある人の就職機会を確保するとともに、障害の程度に応じた職業訓練を充実させる」が同程度の割合となっているが、50代以上は「道路、駅、交通機関、建物など生活環境面での障壁除去（バリアフリー化）を推進する」の方が高くなっている。一方、女性はいずれの年齢も「道路、駅、交通機関、建物など生活環境面での障壁除去（バリアフリー化）を推進する」の割合が高くなっている。

【居住年数別】

居住年数別にみると、順位は異なるものの、いずれも全体の傾向と同じく「道路、駅、交通機関、建物など生活環境面での障壁除去（バリアフリー化）を推進する」と「障害のある人の就職機会を確保するとともに、障害の程度に応じた職業訓練を充実させる」の割合が他の項目に比べて高くなっている。

【居住地区別】

居住地区別にみても、順位は異なるものの、戸畑区を除いて「道路、駅、交通機関、建物など生活環境面での障壁除去（バリアフリー化）を推進する」と「障害のある人の就職機会を確保するとともに、障害の程度に応じた職業訓練を充実させる」の割合が他の項目に比べて高くなっている。なお、戸畑区は「道路、駅、交通機関、建物など生活環境面での障壁除去（バリアフリー化）を推進する」（55.9%）だけが他の項目に比べて抜き出ている。

図表 2-41 障害のある人の人権を守るために必要だと思うこと（性・年齢別、居住年数別、居住地区別）

単位：%		サンプル数	道路、駅、交通機関、建物など生活環境面での障壁除去（バリアフリー化）を推進する	障害のある人の就職機会を確保するとともに、障害の程度に応じた職業訓練を充実させる	福祉機器、福祉施設（福祉センター、福祉会館、福祉センター、福祉センター、福祉センター）を整備する	保健・福祉施設（福祉センター、福祉センター、福祉センター）を整備する	学校・教育施設（福祉センター、福祉センター、福祉センター）を整備する	障害のある人の就職機会を確保するとともに、障害の程度に応じた職業訓練を充実させる	障害のある人の就職機会を確保するとともに、障害の程度に応じた職業訓練を充実させる	障害のある人の就職機会を確保するとともに、障害の程度に応じた職業訓練を充実させる	障害のある人の就職機会を確保するとともに、障害の程度に応じた職業訓練を充実させる	障害のある人の就職機会を確保するとともに、障害の程度に応じた職業訓練を充実させる	障害のある人の就職機会を確保するとともに、障害の程度に応じた職業訓練を充実させる	その他	特になし	分からない	無回答
全体		2,457	51.6	44.0	35.0	34.3	28.1	16.6	15.4	14.1	0.4	3.3	5.5	1.5			
性・年齢別	男性全体	979	48.5	43.8	33.5	34.6	26.5	16.0	18.5	16.0	0.4	3.9	5.4	1.3			
	20～29歳	77	41.6	41.6	32.5	32.5	28.6	11.7	14.3	16.9	-	2.6	7.8	1.3			
	30～39歳	77	44.2	45.5	29.9	31.2	26.0	16.9	7.8	9.1	-	10.4	6.5	-			
	40～49歳	155	44.5	47.1	29.7	40.6	31.6	13.5	20.0	12.3	1.3	3.2	3.9	0.6			
	50～59歳	173	52.6	47.4	35.8	33.5	23.7	19.1	22.0	16.2	0.6	2.9	2.9	1.7			
	60～69歳	271	48.3	42.4	38.0	31.7	26.6	17.0	20.7	15.1	-	4.1	6.6	1.5			
	70歳以上	222	52.7	40.5	30.6	36.9	23.0	15.8	17.1	21.6	0.5	3.2	5.9	1.8			
	女性全体	1,418	54.4	44.7	36.6	34.4	29.7	17.3	13.3	13.0	0.4	2.6	5.2	1.4			
	20～29歳	116	50.0	42.2	31.9	35.3	44.0	25.0	11.2	6.9	1.7	2.6	6.9	0.9			
	30～39歳	156	57.1	53.2	35.3	34.6	30.1	18.6	10.3	7.1	0.6	1.3	5.1	0.6			
40～49歳	248	52.8	48.4	40.7	35.5	31.0	26.6	13.3	7.7	-	1.6	4.4	0.4				
50～59歳	250	53.2	45.6	40.0	32.4	29.6	15.6	14.4	11.2	0.8	3.2	5.2	2.0				
60～69歳	318	63.2	43.4	37.7	37.1	26.1	14.5	13.5	14.2	-	1.3	2.8	1.3				
70歳以上	321	48.0	39.6	32.1	32.7	26.8	11.2	14.0	23.1	-	5.0	7.2	2.5				
居住年数別	3年未満	81	44.4	51.9	30.9	38.3	39.5	17.3	9.9	9.9	2.5	4.9	4.9	-			
	3～5年未満	46	39.1	45.7	30.4	52.2	34.8	10.9	13.0	8.7	-	-	13.0	-			
	5～10年未満	92	57.6	40.2	39.1	34.8	25.0	16.3	20.7	8.7	-	4.3	4.3	-			
	10～20年未満	206	50.5	51.9	34.5	31.6	31.1	17.0	16.5	11.2	-	1.5	6.8	1.9			
	20年以上	2,002	52.4	43.2	35.4	34.1	27.3	16.8	15.3	15.0	0.4	3.2	5.1	1.6			
居住地区別	門司区	235	48.5	43.8	35.3	32.8	26.0	16.2	13.2	14.5	0.9	3.0	8.5	2.6			
	小倉北区	458	52.8	43.9	37.6	34.3	27.9	19.7	17.0	13.3	0.2	2.4	4.4	2.4			
	小倉南区	517	51.3	42.4	33.1	32.1	25.9	18.0	16.4	15.3	0.6	3.3	5.2	1.9			
	若松区	222	51.4	43.7	32.4	34.7	30.2	16.7	17.6	15.3	0.9	2.7	5.9	0.5			
	八幡東区	183	49.7	47.0	33.3	35.5	24.6	20.2	13.7	14.2	0.5	4.9	4.9	1.1			
	八幡西区	645	52.6	46.7	36.1	36.6	30.7	14.3	14.4	13.6	0.2	3.7	4.5	0.8			
	戸畑区	145	55.9	35.2	37.9	35.9	26.9	12.4	12.4	11.7	-	2.8	6.2	0.7			



## 6 同和問題について

### 1. 同和問題を初めて知った経緯

問 15 あなたが、同和問題（部落差別）を初めて知ったのは、どのようなことからですか。

#### 【設問の趣旨】

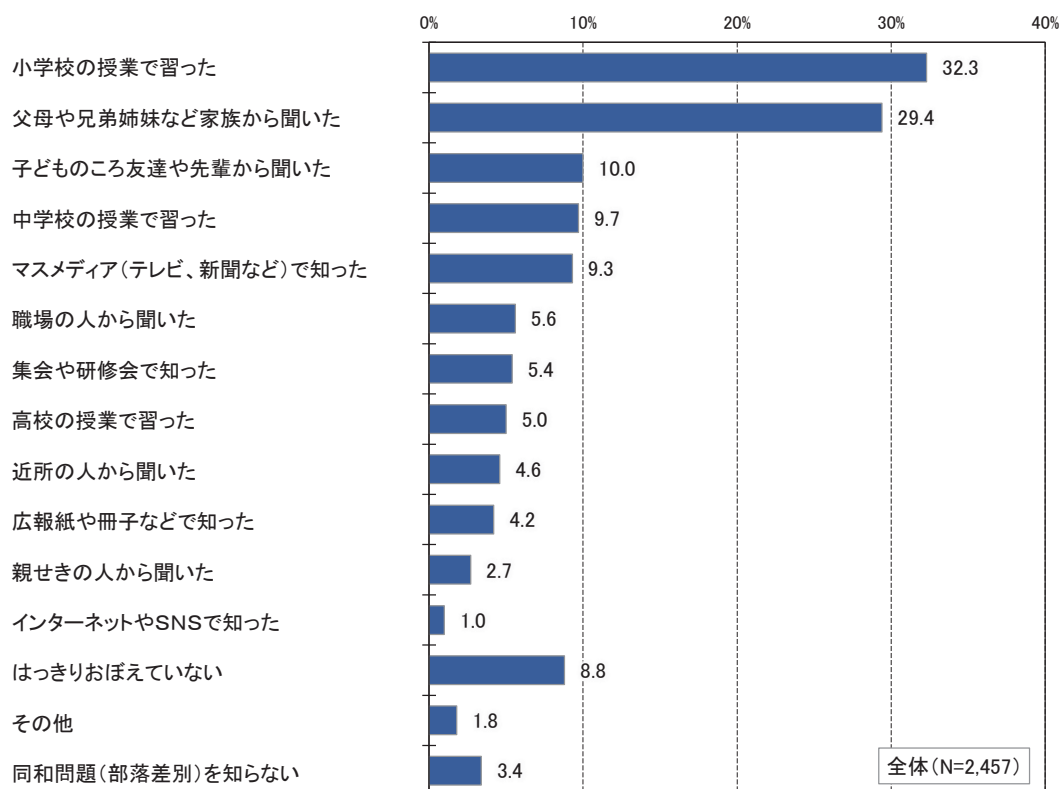
同和問題（部落差別）は基本的人権にかかわる重要な問題であり、その解決は国民的課題である。行政はもとより市民一人ひとりが同和問題（部落差別）を正しく理解し、認識を深めるとともに、同和問題（部落差別）の解決に取り組まなければならない。

同和問題（部落差別）との最初の接点がどのような形で行われたかによって、その後の意識の形成にも大きな影響があると思われる。ここでは、最初にどのような状況で同和問題（部落差別）を知ったかをみるための設問である。

#### 【全体】

同和問題を初めて知った経緯についてたずねたところ、全体では「小学校の授業で習った」をあげた人の割合が 32.3%で最も高く、次いで「父母や兄弟姉妹など家族から聞いた」（29.4%）、「子どものころ友達や先輩から聞いた」（10.0%）、「中学校の授業で習った」（9.7%）、「マスメディア（テレビ、新聞など）で知った」（9.3%）などの順となっている。なお、「はっきりおぼえていない」と答えた人は 8.8%、「同和問題（部落差別）を知らない」と答えた人は 3.4%となっている。

図表 2-42 同和問題を初めて知った経緯



【性・年齢別】

性別にみると、順位は異なるものの、全体の傾向と同じく男女いずれも「小学校の授業で習った」（男性 27.6%、女性 35.6%）と「父母や兄弟姉妹など家族から聞いた」（男性 27.0%、女性 31.8%）の割合が他の項目に比べて高くなっている。年齢別にみると、男女いずれも 50 代までは「小学校の授業で習った」が最も高く、60～69 歳、70 歳以上は「父母や兄弟姉妹など家族から聞いた」が男女とも最も高くなっている。

【居住年数別】

居住年数別にみると、20 年以上を除いて「小学校の授業で習った」の割合が最も高くなっている。なお、20 年以上は「父母や兄弟姉妹など家族から聞いた」（30.7%）と「小学校の授業で習った」（29.8%）が同程度の割合となっている。

【居住地区別】

居住地区別にみても、順位は異なるものの、いずれの区も「小学校の授業で習った」と「父母や兄弟姉妹など家族から聞いた」の割合が他の項目に比べて高くなっている。

図表 2-43 同和問題を初めて知った経緯（性・年齢別、居住年数別、居住地区別）

単位:%	サンプル数	小学校の授業で習った	父母や兄弟姉妹など家族から聞いた	子どものころ友達や先輩から聞いた	中学校の授業で習った	マスメディア（テレビ、新聞など）で知った	職場の人から聞いた	集会や研修会で知った	高校の授業で習った	近所の人から聞いた	た	広報紙や冊子などで知った	親せきの人から聞いた	で知った	インターネットや SNS	はつきりおぼえていない	その他	知らない（部落差別）を	無回答
全体	2,457	32.3	29.4	10.0	9.7	9.3	5.6	5.4	5.0	4.6	4.2	2.7	1.0	8.8	1.8	3.4	1.2		
性・年齢別	男性全体	979	27.6	27.0	12.6	10.0	11.5	8.0	7.0	4.7	4.6	3.9	3.5	1.4	8.3	1.7	3.7	1.3	
	20～29歳	77	36.4	18.2	2.6	24.7	2.6	1.3	2.6	10.4	-	-	2.6	5.2	7.8	-	10.4	1.3	
	30～39歳	77	42.9	15.6	7.8	5.2	6.5	3.9	3.9	3.9	1.3	3.9	-	3.9	7.8	1.3	11.7	-	
	40～49歳	155	55.5	21.3	6.5	7.1	7.1	5.2	3.2	4.5	2.6	1.9	2.6	-	10.3	0.6	0.6	-	
	50～59歳	173	47.4	19.7	8.7	13.3	9.2	4.0	6.9	5.8	2.9	1.7	2.9	1.7	7.5	1.7	0.6	2.3	
	60～69歳	271	12.9	34.3	16.2	9.6	11.8	11.4	7.4	5.9	3.3	4.8	4.1	1.5	8.1	3.7	3.0	1.1	
	70歳以上	222	2.3	35.1	20.7	6.8	20.7	12.2	12.2	0.9	11.7	7.2	5.4	-	8.1	0.9	4.1	1.8	
	女性全体	1,418	35.6	31.8	8.3	9.9	8.0	4.0	4.4	5.3	4.7	4.5	2.3	0.6	8.7	1.8	3.0	0.8	
	20～29歳	116	35.3	24.1	0.9	13.8	5.2	0.9	-	6.0	0.9	0.9	0.9	1.7	13.8	-	12.9	-	
	30～39歳	156	62.8	23.1	1.9	8.3	4.5	1.3	0.6	4.5	2.6	1.9	1.3	0.6	10.3	1.3	2.6	0.6	
40～49歳	248	62.5	27.0	6.9	11.7	4.0	5.2	1.2	6.5	3.2	1.6	1.6	1.2	4.0	0.4	1.2	0.4		
50～59歳	250	50.4	30.8	7.2	14.0	4.4	1.6	2.8	7.2	2.8	1.2	2.8	-	5.2	1.2	2.0	0.4		
60～69歳	318	17.9	39.9	9.4	9.1	11.3	5.7	6.6	6.3	4.4	6.6	3.8	0.3	8.5	2.5	2.2	0.9		
70歳以上	321	7.5	35.2	14.6	5.3	13.4	5.9	9.3	2.2	10.0	9.7	1.9	0.6	13.1	3.7	2.5	1.9		
居住年数別	3年未満	81	37.0	21.0	3.7	17.3	12.3	3.7	2.5	4.9	3.7	1.2	6.2	2.5	8.6	-	13.6	-	
	3～5年未満	46	47.8	23.9	4.3	15.2	13.0	4.3	-	2.2	-	2.2	-	2.2	2.2	-	4.3	-	
	5～10年未満	92	48.9	22.8	5.4	10.9	4.3	3.3	2.2	6.5	2.2	2.2	2.2	-	4.3	1.1	5.4	-	
	10～20年未満	206	45.1	27.2	4.4	6.8	8.3	5.3	4.9	5.8	1.5	1.5	2.9	1.0	7.8	1.5	4.4	1.0	
	20年以上	2,002	29.8	30.7	11.2	9.7	9.6	5.9	5.8	4.9	5.2	4.8	2.6	0.9	8.8	1.9	2.7	1.2	
居住地区別	門司区	235	29.8	29.4	10.6	11.9	7.7	5.5	7.7	6.4	5.5	5.5	1.7	0.9	9.4	2.6	3.8	1.7	
	小倉北区	458	33.4	33.0	11.6	11.1	11.1	6.8	5.7	4.6	6.6	2.6	1.7	0.7	8.7	1.7	3.3	1.1	
	小倉南区	517	32.3	29.6	11.8	9.7	7.9	5.4	7.4	3.9	5.6	3.3	3.1	0.6	7.4	2.1	2.7	1.5	
	若松区	222	28.8	25.2	8.1	7.2	13.5	4.5	8.1	2.7	3.6	3.6	2.7	1.4	14.0	0.9	2.7	1.4	
	八幡東区	183	35.5	33.3	8.2	8.7	8.7	4.9	1.1	6.0	4.4	7.7	3.8	2.2	6.0	0.5	3.8	1.1	
	八幡西区	645	33.5	27.4	9.3	9.3	8.1	5.7	4.0	6.2	3.1	4.7	2.6	0.8	8.1	2.2	3.4	0.5	
	戸畑区	145	29.7	31.7	6.9	11.0	11.0	6.2	1.4	6.2	3.4	5.5	5.5	2.8	7.6	0.7	4.8	1.4	



## 2. 同和地区出身者に対する差別意識について

### (1) 同和地区出身者に対する周りの人の差別意識

問 16-1 あなたは、同和地区出身の人に対して、周りの人がどのような意識を持っていると思いますか。  
※この意識調査で「同和地区」とは、同和问题（部落差別）の解決のための対策事業を行っていた地域のことを示しています。

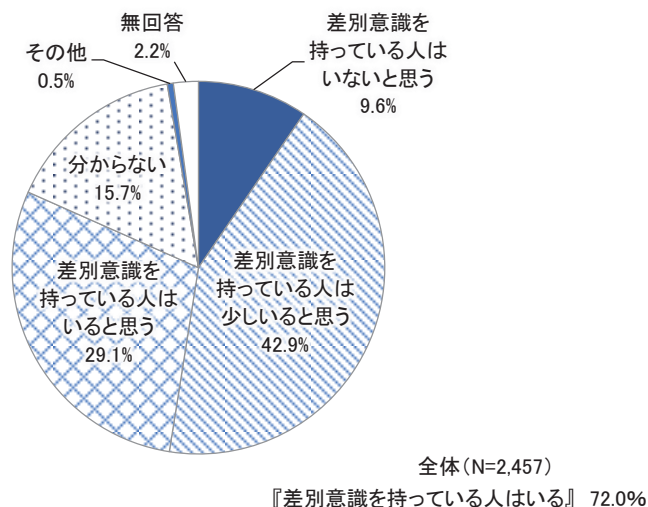
#### 【設問の趣旨】

同和地区出身の人に対する差別意識を持っている人が、現在、自分の周りにどの程度存在していると思うかを問う設問である。

#### 【全体】

同和地区出身者に対する周りの人の差別意識についてたずねたところ、全体では「差別意識を持っている人は少しいと思う」と答えた人の割合が 42.9%で最も高く、「差別意識を持っている人はいると思う」(29.1%) と合わせた『差別意識を持っている人はいる』と答えた人が占める割合は 72.0%と、全体の 7 割を占めている。なお、「差別意識を持っている人はいないと思う」と答えた人は 9.6%、「分からない」と答えた人は 15.7%となっている。

図表 2-44 同和地区出身者に対する周りの人の差別意識について



#### 【性・年齢別】

性別にみると、全体の傾向と同じく男女いずれも「差別意識を持っている人は少しいと思う」(男性 41.4%、女性 44.7%) が最も高いものの、『差別意識を持っている人はいる』は男性が 69.7%、女性は 74.2%と、女性の方が男性よりも上回っている。年齢別にみると、男性は年齢が高い方が『差別意識を持っている人はいる』人が占める割合は高くなる傾向がみられる。一方、女性は 20～29 歳を除いて『差別意識を持っている人はいる』人が 7 割前後を占める。

#### 【居住年数別】

居住年数別にみると、居住年数が長い方が『差別意識を持っている人はいる』人が占める割合は高くなる傾向がみられる。

【居住地区別】

居住地区別にみると、いずれの区も『差別意識を持っている人はいる』人が7割程度みられる。

図表 2-45 同和地区出身者に対する周りの人の差別意識について

(性・年齢別、居住年数別、居住地区別)

単位：%		サ ン プ ル 数	思 う 差 別 意 識 は い な い と て	思 う 差 別 意 識 は 少 し い と て	思 う 差 別 意 識 は 中 等 と 思 う	思 う 差 別 意 識 は 多 い と 思 う	分 か ら な い	そ の 他	無 回 答	『 思 う 差 別 意 識 は い る と 思 う 』
全体		2,457	9.6	42.9	29.1	15.7	0.5	2.2	72.0	
性・ 年 齢 別	男性全体	979	12.3	41.4	28.3	15.2	0.6	2.2	69.7	
	20～29歳	77	16.9	37.7	18.2	23.4	-	3.9	55.9	
	30～39歳	77	13.0	31.2	26.0	28.6	1.3	-	57.2	
	40～49歳	155	13.5	45.8	28.4	11.0	0.6	0.6	74.2	
	50～59歳	173	8.7	48.6	28.9	9.2	1.7	2.9	77.5	
	60～69歳	271	11.8	42.1	29.2	14.8	-	2.2	71.3	
	70歳以上	222	13.1	36.0	31.5	16.2	0.5	2.7	67.5	
	女性全体	1,418	8.0	44.7	29.5	15.4	0.5	1.9	74.2	
	20～29歳	116	15.5	36.2	14.7	32.8	-	0.9	50.9	
	30～39歳	156	7.7	53.2	21.8	14.1	1.9	1.3	75.0	
40～49歳	248	6.0	47.2	31.5	13.3	1.2	0.8	78.7		
50～59歳	250	4.8	45.6	37.2	10.4	-	2.0	82.8		
60～69歳	318	7.2	43.7	34.6	12.6	-	1.9	78.3		
70歳以上	321	9.7	42.1	26.2	18.4	0.3	3.4	68.3		
居 住 年 数 別	3年未満	81	13.6	35.8	23.5	25.9	-	1.2	59.3	
	3～5年未満	46	8.7	45.7	17.4	21.7	6.5	-	63.1	
	5～10年未満	92	9.8	39.1	30.4	17.4	-	3.3	69.5	
	10～20年未満	206	7.8	50.5	25.7	13.6	0.5	1.9	76.2	
	20年以上	2,002	9.7	42.8	30.1	14.8	0.4	2.1	72.9	
居 住 地 区 別	門司区	235	10.6	39.6	31.9	14.5	0.4	3.0	71.5	
	小倉北区	458	8.3	43.4	34.1	11.6	0.7	2.0	77.5	
	小倉南区	517	7.9	44.7	29.8	14.3	0.6	2.7	74.5	
	若松区	222	12.2	43.2	23.4	18.5	0.9	1.8	66.6	
	八幡東区	183	6.0	42.6	31.7	17.5	-	2.2	74.3	
	八幡西区	645	11.8	43.1	26.7	16.4	0.5	1.6	69.8	
	戸畑区	145	9.7	44.1	24.8	18.6	0.7	2.1	68.9	

## (2) 同和地区出身者に対する自身の差別意識

問 16-2 同和地区出身の人に対するあなたの考えをお聞かせください。

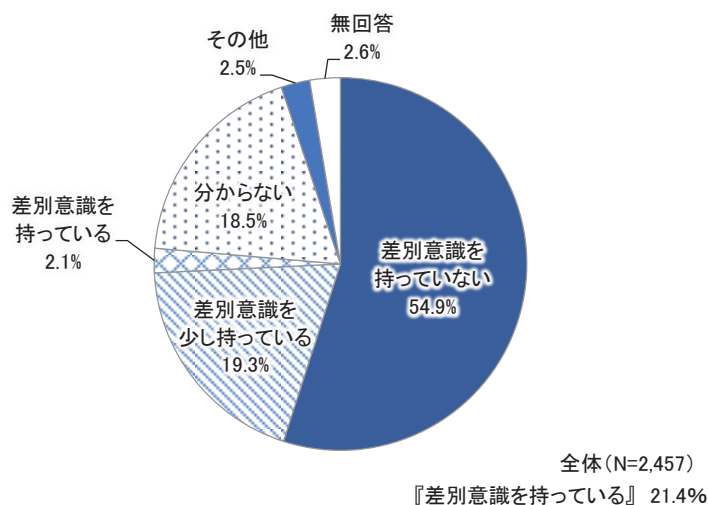
### 【設問の趣旨】

同和地区出身の人に対して、現在、自分自身がどのような意識を持っているかを問う設問である。

### 【全体】

同和地区出身者に対する自身の差別意識についてたずねたところ、全体では「差別意識を持っていない」と答えた人の割合が 54.9%で最も高く、全体の半数を超えている。なお、「差別意識を持っている」と答えた人は 2.1%、「差別意識を少し持っている」は 19.3%で、両者を合わせた『差別意識を持っている』人が占める割合は 21.4%となっている。なお、「分からない」と答えた人は 18.5%となっている。

図表 2-46 同和地区出身者に対する自身の差別意識について



### 【性・年齢別】

性別にみると、全体の傾向と同じく男女いずれも「差別意識を持っていない」（男性 59.1%、女性 52.9%）が半数を占めている。なお、『差別意識を持っている』人は男性が 20.8%、女性は 21.9%となっている。年齢別にみると、男女いずれの年齢も「差別意識を持っていない」人が半数近くを占めているが、男女ともに年齢が高い方が『差別意識を持っている』人が占める割合は高くなる傾向がみられる。

### 【居住年数別】

居住年数別にみると、いずれも「差別意識を持っていない」人が半数近くを占めているが、居住年数が長い方が『差別意識を持っている』人が占める割合は高くなる傾向がみられる。

【居住地区別】

居住地区別にみると、いずれの区も「差別意識を持っていない」人が半数近くを占めている。なお、『差別意識を持っている』人が占める割合は小倉北区が 27.0%で最も高く、次いで小倉南区(26.7%)の順となっている。

図表 2-47 同和地区出身者に対する自身の差別意識について（性・年齢別、居住年数別、居住地区別）

単位:%	サンプル数	い ない 差別 意識 を持 って	持 つ て い る 差 別 意 識 を 少 し	い る 差 別 意 識 を 持 つ て	分 か ら な い	そ の 他	無 回 答	『 差 別 意 識 を 持 つ て い る 』	
全体	2,457	54.9	19.3	2.1	18.5	2.5	2.6	21.4	
性・年齢別	男性全体	979	59.1	18.5	2.3	15.0	2.5	20.8	
	20～29歳	77	71.4	7.8	1.3	15.6	-	9.1	
	30～39歳	77	63.6	9.1	1.3	19.5	5.2	10.4	
	40～49歳	155	65.2	14.2	1.3	15.5	2.6	15.5	
	50～59歳	173	57.2	22.0	4.0	9.8	3.5	26.0	
	60～69歳	271	56.5	21.4	1.8	14.4	3.0	23.2	
	70歳以上	222	54.1	22.1	3.2	18.0	0.9	1.8	25.3
	女性全体	1,418	52.9	19.9	2.0	20.4	2.5	2.4	21.9
	20～29歳	116	62.1	6.9	0.9	29.3	-	0.9	7.8
	30～39歳	156	57.1	13.5	1.9	21.2	4.5	1.9	15.4
40～49歳	248	56.0	19.4	2.4	18.1	3.6	0.4	21.8	
50～59歳	250	47.2	22.4	1.6	21.2	4.0	3.6	24.0	
60～69歳	318	51.3	25.5	2.2	17.0	1.3	2.8	27.7	
70歳以上	321	51.7	20.6	2.2	20.6	1.6	3.4	22.8	
居住年数別	3年未満	81	61.7	7.4	-	24.7	2.5	3.7	7.4
	3～5年未満	46	71.7	6.5	-	17.4	4.3	-	6.5
	5～10年未満	92	67.4	8.7	1.1	19.6	1.1	2.2	9.8
	10～20年未満	206	61.7	15.0	1.9	16.0	2.4	2.9	16.9
	20年以上	2,002	53.3	21.1	2.3	18.2	2.5	2.5	23.4
居住地区別	門司区	235	55.3	19.1	2.1	15.7	4.3	3.4	21.2
	小倉北区	458	51.1	24.2	2.8	16.6	2.4	2.8	27.0
	小倉南区	517	54.4	24.8	1.9	14.5	2.3	2.1	26.7
	若松区	222	57.2	12.2	2.3	23.9	1.8	2.7	14.5
	八幡東区	183	53.6	16.4	1.1	22.4	3.3	3.3	17.5
	八幡西区	645	60.0	15.7	2.0	18.0	2.2	2.2	17.7
	戸畑区	145	51.0	17.9	1.4	24.8	1.4	3.4	19.3

【人権問題への関心度別】

人権問題への関心度別にみると、『関心がある』派、『関心がない』派の男女いずれも「差別意識を持っていない」人が半数近くを占めるものの、『差別意識を持っている』人が占める割合は男女ともに『関心がある』派の方が『関心がない』派よりも上回っている。

図表 2-48 同和地区出身者に対する自身の差別意識について（人権問題への関心度別）

単位:%	サンプル数	い ない 差別 意識 を持 って	持 つ て い る 差 別 意 識 を 少 し	い る 差 別 意 識 を 持 つ て	分 か ら な い	そ の 他	無 回 答	『 差 別 意 識 を 持 つ て い る 』	
全体	2,457	54.9	19.3	2.1	18.5	2.5	2.6	21.4	
人権問題への関心度別	関心がある	1,909	56.9	20.6	1.9	15.3	2.8	2.4	22.5
	男性	726	60.9	20.1	2.2	11.6	2.8	2.5	22.3
	女性	1,140	55.3	21.0	1.8	17.1	2.8	2.1	22.8
	その他	6	-	33.3	16.7	50.0	-	-	50.0
	関心がない	514	48.2	15.0	2.9	30.0	1.4	2.5	17.9
	男性	245	54.3	13.9	2.9	25.3	1.6	2.0	16.8
	女性	253	42.7	16.2	3.2	34.4	1.2	2.4	19.4
その他	4	25.0	25.0	-	50.0	-	-	25.0	

### 3. 同和問題に関して人権が尊重されていないと思うこと

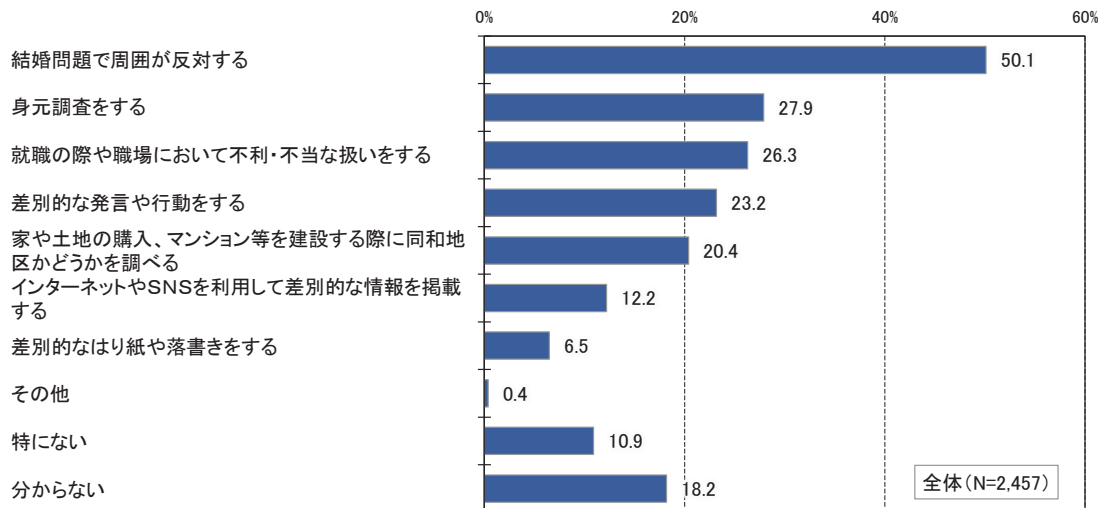
問 17 同和問題（部落差別）に関する事柄で、人権が尊重されていないと思うのはどのようなことですか。次の中から3つ選んでください。（複数回答）

【設問の趣旨】  
同和問題（部落差別）に関する事柄で人権が尊重されていないと思われる事項を選択する設問である。選択された内容を見ることによって、市民の問題意識がどこにあるのかをみる。

#### 【全体】

同和問題に関して人権が尊重されていないと思うことについてたずねたところ、全体では「結婚問題で周囲が反対する」をあげた人の割合が50.1%で最も高く、他に比べて抜きん出ている。以下、「身元調査をする」(27.9%)、「就職の際や職場において不利・不当な扱いをする」(26.3%)、「差別的な発言や行動をする」(23.2%)、「家や土地の購入、マンション等を建設する際に同和地区かどうかを調べる」(20.4%)と続く。なお、「特にない」と答えた人は10.9%、「分からない」と答えた人は18.2%となっている。

図表 2-49 同和問題に関して人権が尊重されていないと思うこと



#### 【性・年齢別】

性別にみると、全体の傾向と同じく男女いずれも「結婚問題で周囲が反対する」（男性 49.2%、女性 51.3%）をあげた人の割合が最も高くなっている。年齢別にみても、男女いずれの年齢も「結婚問題で周囲が反対する」が最も高くなっている。

#### 【居住年数別】

居住年数別にみると、いずれも全体の傾向と同じく「結婚問題で周囲が反対する」が最も高くなっている。

#### 【居住地区別】

居住地区別にみても、いずれの区も全体の傾向と同じく「結婚問題で周囲が反対する」が最も高くなっている。

図表 2-50 同和問題に関して人権が尊重されていないと思うこと

(性・年齢別、居住年数別、居住地区別)

単位：%		サンプル数	結婚問題で周囲が反対する	身元調査をする	就職の際や職場において不利・不当な扱いをする	差別的な発言や行動をする	家を建設する際に同和地区かどうかを調べる	家や土地の購入、マンション等を建てる際に同和地区かどうかを調べる	インターネットやSNSを利用して差別的な情報を掲載する	差別的なはり紙や落書きをする	その他	特にない	分からない	無回答
全体		2,457	50.1	27.9	26.3	23.2	20.4	12.2	6.5	0.4	10.9	18.2	2.3	
性・年齢別	男性全体	979	49.2	29.2	25.3	23.8	20.4	14.9	7.5	0.4	13.3	15.7	1.9	
	20～29歳	77	44.2	16.9	26.0	33.8	7.8	15.6	16.9	-	7.8	23.4	3.9	
	30～39歳	77	42.9	20.8	32.5	26.0	11.7	18.2	9.1	-	13.0	27.3	-	
	40～49歳	155	48.4	34.8	19.4	24.5	25.2	21.3	9.0	0.6	13.5	11.6	1.3	
	50～59歳	173	48.0	26.6	27.2	27.2	23.7	15.6	6.4	0.6	11.0	15.6	1.2	
	60～69歳	271	50.2	32.5	25.8	17.0	20.7	15.1	7.0	0.4	15.5	13.3	2.6	
	70歳以上	222	53.6	30.6	24.8	24.8	22.1	8.1	4.1	0.5	14.4	15.3	1.8	
	女性全体	1,418	51.3	27.6	27.2	23.1	20.6	10.3	6.0	0.4	9.2	19.5	2.2	
	20～29歳	116	41.4	21.6	40.5	36.2	11.2	12.9	16.4	-	6.9	28.4	1.7	
	30～39歳	156	51.9	24.4	28.8	34.0	22.4	15.4	9.6	1.3	5.8	17.9	0.6	
	40～49歳	248	56.9	23.8	34.7	29.8	23.0	17.7	8.1	0.8	4.4	13.7	2.0	
	50～59歳	250	54.0	30.8	28.8	19.6	20.4	13.2	4.0	-	8.4	20.0	0.4	
60～69歳	318	54.4	29.6	25.8	19.5	24.2	6.0	4.1	0.6	10.1	17.6	2.5		
70歳以上	321	45.8	30.5	15.6	13.7	17.8	2.5	2.2	-	15.3	22.4	4.4		
居住年数別	3年未満	81	40.7	23.5	30.9	32.1	12.3	16.0	12.3	-	7.4	25.9	1.2	
	3～5年未満	46	52.2	32.6	28.3	30.4	15.2	17.4	10.9	2.2	4.3	19.6	-	
	5～10年未満	92	58.7	31.5	30.4	30.4	19.6	10.9	9.8	1.1	9.8	15.2	1.1	
	10～20年未満	206	52.4	27.2	32.5	27.2	19.9	15.5	9.7	0.5	6.8	21.4	1.5	
	20年以上	2,002	50.2	28.1	25.4	22.1	21.1	11.6	5.8	0.3	11.6	17.5	2.3	
居住地区別	門司区	235	47.7	27.2	23.8	20.4	17.9	8.5	3.0	0.4	13.2	19.6	4.3	
	小倉北区	458	52.2	29.9	27.1	25.3	23.6	13.3	7.4	0.9	8.1	15.3	2.6	
	小倉南区	517	50.1	27.9	21.3	21.3	24.0	11.8	6.4	0.8	12.0	16.8	1.9	
	若松区	222	53.2	26.6	31.1	27.0	13.1	12.2	5.4	-	8.1	20.7	2.3	
	八幡東区	183	50.8	27.9	23.5	26.8	20.2	19.7	10.4	-	8.2	18.0	0.5	
	八幡西区	645	49.3	28.1	28.5	21.9	20.2	10.7	6.4	-	12.7	18.9	2.3	
	戸畑区	145	52.4	26.9	31.7	24.8	17.2	11.7	7.6	-	13.1	16.6	0.7	



【人権問題への関心度別】

人権問題への関心度別にみると、『関心がある』派、『関心がない』派の男女いずれも「結婚問題で周囲が反対する」が最も高くなっているものの、割合は男女ともに『関心がある』派の方が『関心がない』派よりも上回っている。一方、「分からない」と答えた人の割合は『関心がない』派が男女ともに2割を超えて『関心がある』派よりも高くなっている。

図表 2-51 同和問題に関して人権が尊重されていないと思うこと（人権問題への関心度別）

単位：%		サンプル数	結婚問題で周囲が反対する	身元調査をする	就職の際や職場において不利・不当な扱いをする	差別的な発言や行動をする	家や土地の購入、マンション等を建設する際に同和地区かどうかを調べる	インターネットやSNSを利用して差別的な情報を掲載する	差別的なはり紙や落書きをする	その他	特にない	分からない	無回答
全体		2,457	50.1	27.9	26.3	23.2	20.4	12.2	6.5	0.4	10.9	18.2	2.3
人権問題への関心度別	関心がある	1,909	54.3	30.4	28.8	25.4	21.9	13.5	7.0	0.5	8.7	15.2	1.8
	男性	726	53.9	31.4	27.5	25.9	22.9	17.1	8.0	0.6	10.2	12.8	1.8
	女性	1,140	55.1	30.4	29.7	25.1	21.5	11.1	6.5	0.4	7.7	16.6	1.5
	その他	6	83.3	16.7	33.3	-	33.3	33.3	16.7	-	16.7	-	-
	関心がない	514	36.6	19.3	18.1	15.8	16.0	8.0	5.1	0.2	18.7	28.4	2.5
	男性	245	35.5	22.4	19.2	17.1	13.5	9.0	6.1	-	22.9	24.5	1.6
	女性	253	37.9	17.0	17.4	15.0	18.2	7.5	4.3	0.4	15.4	31.2	2.8
	その他	4	50.0	-	50.0	-	25.0	-	-	-	25.0	25.0	-

#### 4. 同和問題の解決に対する考え

問 18 同和問題（部落差別）の解決に対するあなたの考えに最も近いものを選んでください。

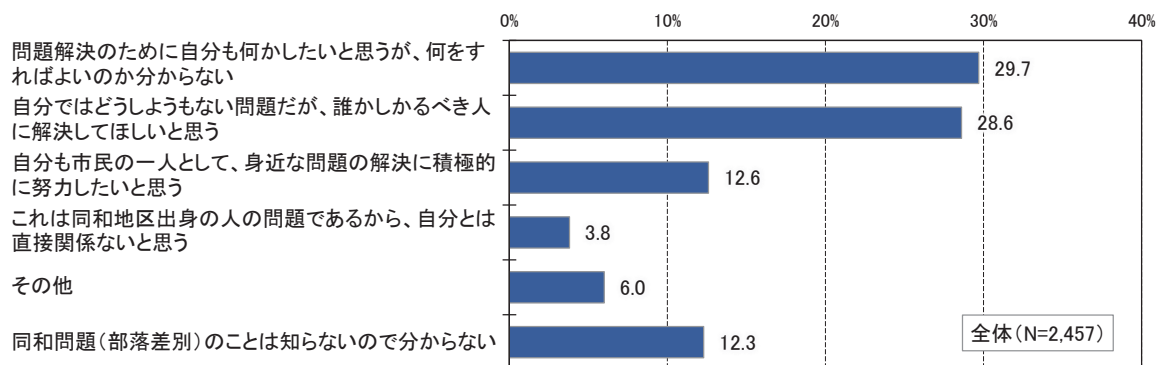
##### 【設問の趣旨】

同和問題（部落差別）の解決に向けて、自分がどうすべきだと考えているのか、そのための行動として、自らがどのような態度で臨もうとしているのかをみる設問である。

##### 【全体】

同和問題の解決に対する考えについてたずねたところ、全体では「問題解決のために自分も何かしたいと思うが、何をすればよいのか分からない」と答えた人の割合が29.7%で最も高く、次いで「自分ではどうしようもない問題だが、誰かしかるべき人に解決してほしいと思う」（28.6%）の順となっている。なお、「同和問題（部落差別）のことは知らないので分からない」と答えた人は12.3%となっている。

図表 2-52 同和問題の解決に対する考え



##### 【性・年齢別】

性別にみると、男性は「問題解決のために自分も何かしたいと思うが、何をすればよいのか分からない」（29.1%）が最も高く、次いで「自分ではどうしようもない問題だが、誰かしかるべき人に解決してほしいと思う」（26.4%）の順となっている。一方、女性は「問題解決のために自分も何かしたいと思うが、何をすればよいのか分からない」（30.6%）と「自分ではどうしようもない問題だが、誰かしかるべき人に解決してほしいと思う」（30.1%）が同程度の割合となっている。年齢別にみると、男性は60代までは「問題解決のために自分も何かしたいと思うが、何をすればよいのか分からない」が最も高いが、70歳以上は「自分ではどうしようもない問題だが、誰かしかるべき人に解決してほしいと思う」（29.3%）の方が「問題解決のために自分も何かしたいと思うが、何をすればよいのか分からない」（22.5%）よりも高くなっている。一方、女性は20～29歳、40・50代は「問題解決のために自分も何かしたいと思うが、何をすればよいのか分からない」が最も高いが、30～39歳は「問題解決のために自分も何かしたいと思うが、何をすればよいのか分からない」（31.4%）と「自分ではどうしようもない問題だが、誰かしかるべき人に解決してほしいと思う」（32.7%）がほぼ同程度の割合で、60～69歳と70歳以上は「自分ではどうしようもない問題

だが、誰かしかるべき人に解決してほしいと思う」の方が高くなっている。なお、「自分も市民の一人として、身近な問題の解決に積極的に努力したいと思う」と答えた人の割合が最も高いのは男性 50～59 歳の 21.4%となっている。

#### 【居住年数別】

居住年数別にみると、3～5 年未満を除いて「問題解決のために自分も何かしたいと思うが、何をすればよいのか分からない」が最も高くなっている。なお、3～5 年未満は「自分ではどうしようもない問題だが、誰かしかるべき人に解決してほしいと思う」(34.8%)の方が「問題解決のために自分も何かしたいと思うが、何をすればよいのか分からない」(23.9%)よりも高くなっている。

#### 【居住地区別】

居住地区別にみると、小倉北区、小倉南区、若松区は「問題解決のために自分も何かしたいと思うが、何をすればよいのか分からない」が最も高く、門司区、八幡東区、八幡西区は「自分ではどうしようもない問題だが、誰かしかるべき人に解決してほしいと思う」の方が高くなっている。なお、戸畑区は「問題解決のために自分も何かしたいと思うが、何をすればよいのか分からない」(25.5%)と「自分ではどうしようもない問題だが、誰かしかるべき人に解決してほしいと思う」(26.9%)がほぼ同程度の割合となっている。

図表 2-53 同和問題の解決に対する考え（性・年齢別、居住年数別、居住地区別）

単位：%		サンプル数	この問題の解決の仕方から、何をすればよい	自分ではどうしようもない問題	自分も市民の一人として、身近な問題の解決に積極的に努力したいと思う	ないと思う	これは同和地区出身の人の問題であるから、自分とは直接関係ないと思う	その他	同和問題（部落差別）のことは知らないので分からない	無回答
全体		2,457	29.7	28.6	12.6	3.8	6.0	12.3	7.0	
性・年齢別	男性全体	979	29.1	26.4	15.6	4.4	7.3	11.5	5.7	
	20～29歳	77	32.5	18.2	13.0	5.2	9.1	19.5	2.6	
	30～39歳	77	39.0	23.4	6.5	2.6	6.5	16.9	5.2	
	40～49歳	155	35.5	28.4	13.5	2.6	8.4	7.7	3.9	
	50～59歳	173	29.5	27.2	21.4	2.9	8.1	6.9	4.0	
	60～69歳	271	27.3	25.1	16.6	5.9	7.4	11.1	6.6	
	70歳以上	222	22.5	29.3	15.8	5.4	5.4	14.0	7.7	
	女性全体	1,418	30.6	30.1	10.7	3.5	5.0	12.6	7.5	
	20～29歳	116	31.0	25.9	8.6	2.6	1.7	25.9	4.3	
	30～39歳	156	31.4	32.7	9.6	2.6	7.7	12.2	3.8	
40～49歳	248	40.3	29.4	13.3	2.8	4.4	6.9	2.8		
50～59歳	250	38.4	29.2	8.8	2.0	5.2	11.2	5.2		
60～69歳	318	24.8	36.2	11.3	2.8	6.6	10.4	7.9		
70歳以上	321	22.7	25.9	10.9	6.5	3.7	15.0	15.3		
居住年数別	3年未満	81	38.3	21.0	6.2	2.5	6.2	22.2	3.7	
	3～5年未満	46	23.9	34.8	13.0	8.7	4.3	13.0	2.2	
	5～10年未満	92	39.1	30.4	8.7	-	9.8	9.8	2.2	
	10～20年未満	206	35.0	31.1	14.1	1.9	2.9	9.7	5.3	
	20年以上	2,002	28.6	28.7	13.0	4.1	6.1	12.1	7.4	
居住地区別	門司区	235	26.0	27.7	12.8	5.1	7.2	13.2	8.1	
	小倉北区	458	34.3	27.7	12.4	3.5	7.0	9.0	6.1	
	小倉南区	517	28.4	26.5	15.5	5.0	5.0	11.4	8.1	
	若松区	222	32.4	27.0	11.3	2.3	4.1	14.4	8.6	
	八幡東区	183	29.5	32.8	15.3	1.1	5.5	12.0	3.8	
	八幡西区	645	29.6	31.2	10.2	4.3	5.9	12.7	6.0	
	戸畑区	145	25.5	26.9	14.5	1.4	8.3	15.2	8.3	

【人権問題への関心度別】

人権問題への関心度別にみると、『関心がある』派は男女いずれも「問題解決のために自分も何かしたいと思うが、何をすればよいのか分からない」が最も高く、『関心がない』派は男女ともに「自分ではどうしてもない問題だが、誰かしかるべき人に解決してほしいと思う」の方が高くなっている。なお、『関心がある』派で「自分も市民の一人として、身近な問題の解決に積極的に努力したいと思う」と答えた人の割合は男性（18.5%）の方が女性（12.1%）よりも高くなっている。一方、「同和問題（部落差別）のことは知らないので分からない」と答えた人の割合は『関心がない』派が男女ともに2割を超えて『関心がある』派よりも高くなっている。

図表 2-54 同和問題の解決に対する考え（人権問題への関心度別）

単位：%		サンプル数	この問題解決のために、何をすればよいのか分からない	自分ではどうしてもない問題だが、誰かしかるべき人に解決してほしいと思う	自分でも市民の一人として、積極的に努力したいと思う	自分も市民の一人として、積極的に努力したいと思う	これは同和地区出身の直接関係者	その他	同和問題（部落差別）のことは知らない	無回答
人権問題への関心度別	関心がある	1,909	33.8	27.9	14.5	2.8	6.0	8.8	6.2	
	男性	726	32.8	25.1	18.5	3.0	6.9	7.9	5.9	
	女性	1,140	34.9	29.7	12.1	2.5	5.2	9.3	6.2	
	その他	6	16.7	33.3	-	33.3	-	16.7	-	
	関心がない	514	15.6	31.5	6.4	8.0	5.8	25.1	7.6	
	男性	245	18.4	30.2	7.8	8.6	8.6	22.0	4.5	
	女性	253	13.4	32.8	5.5	7.9	3.6	27.3	9.5	
	その他	4	-	75.0	-	-	-	25.0	-	

## 5. 同和問題の解決に大切だと思うこと

問 19 同和問題（部落差別）を解決するために、大切なことはどのようなことだと思いますか。次の中から3つ選んでください。（複数回答）

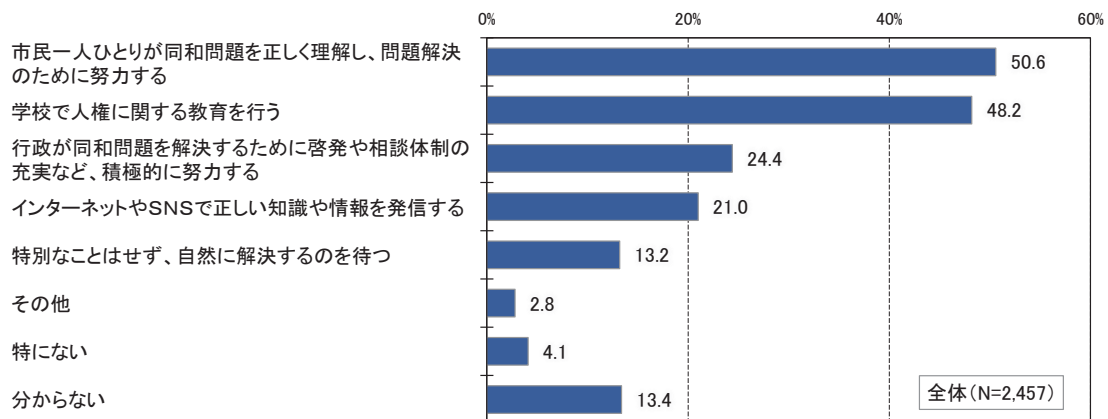
### 【設問の趣旨】

前問（問 18）では、問題解決に向けた自分の意識や行動をみたが、ここでは、自分の考え方を踏まえて、全体として同和問題（部落差別）の解決にどう取り組むべきだと考えているのかをみる設問である。

### 【全体】

同和問題の解決に大切だと思うことについてたずねたところ、全体では「市民一人ひとりが同和問題を正しく理解し、問題解決のために努力する」をあげた人の割合が50.6%で最も高く、次いで「学校で人権に関する教育を行う」（48.2%）の順で、この2項目が他に比べて高くなっている。以下、「行政が同和問題を解決するために啓発や相談体制の充実など、積極的に努力する」（24.4%）、「インターネットやSNSで正しい知識や情報を発信する」（21.0%）と続く。なお、「特別なことはせず、自然に解決するのを待つ」と答えた人は13.2%、「特にない」と答えた人は4.1%、「分からない」と答えた人は13.4%となっている。

図表 2-55 同和問題の解決に大切だと思うこと



### 【性・年齢別】

性別にみると、全体の傾向と同じく男女いずれも「市民一人ひとりが同和問題を正しく理解し、問題解決のために努力する」（男性49.8%、女性51.8%）が最も高く、次いで「学校で人権に関する教育を行う」（男性47.0%、女性49.8%）の順となっている。年齢別にみると、順位は異なるものの、男女いずれの年齢も全体の傾向と同じく「市民一人ひとりが同和問題を正しく理解し、問題解決のために努力する」と「学校で人権に関する教育を行う」の割合が高くなっている。なお、「行政が同和問題を解決するために啓発や相談体制の充実など、積極的に努力する」は男女ともに年齢が高い方が割合は高くなる傾向がみられる一方で、「インターネットやSNSで正しい知識や情報を発信する」は年齢が若い方が割合は高くなる傾向がみられる。

### 【居住年数別】

居住年数別にみると、順位は異なるものの、いずれも全体の傾向と同じく「市民一人ひとりが同



和問題を正しく理解し、問題解決のために努力する」と「学校で人権に関する教育を行う」の割合が高くなっている。

【居住地区別】

居住地区別にみると、小倉北区以外は全体の傾向と同じく「市民一人ひとりが和問題を正しく理解し、問題解決のために努力する」が最も高く、次いで「学校で人権に関する教育を行う」の順となっている。なお、小倉北区は「学校で人権に関する教育を行う」(50.2%)が「市民一人ひとりが和問題を正しく理解し、問題解決のために努力する」(49.6%)とほぼ同程度の割合となっている。

図表 2-56 同和問題の解決に大切だと思うこと（性・年齢別、居住年数別、居住地区別）

単位：%		サンプル数	市民一人ひとりが和問題を正しく理解し、問題解決のために努力する	学校で人権に関する教育を行う	積極的に努力する	行政が同和問題を解決するため、啓発や相談体制の充実など、積極的に努力する	インターネットやSNSで正しい知識や情報を発信する	特別なことをせず、自然に解決するのを待つ	その他	特にな	分からない	無回答
全体		2,457	50.6	48.2	24.4	21.0	13.2	2.8	4.1	13.4	2.3	
性・年齢別	男性全体	979	49.8	47.0	26.6	21.6	16.1	4.0	5.3	12.4	1.5	
	20～29歳	77	45.5	48.1	18.2	29.9	16.9	1.3	1.3	16.9	2.6	
	30～39歳	77	40.3	39.0	16.9	31.2	15.6	5.2	6.5	19.5	-	
	40～49歳	155	48.4	56.1	23.9	20.6	12.9	4.5	6.5	9.0	1.9	
	50～59歳	173	54.3	45.7	23.7	30.1	15.0	5.2	2.9	11.0	1.2	
	60～69歳	271	49.1	41.7	30.3	18.1	19.9	3.7	5.2	11.4	2.2	
	70歳以上	222	53.2	50.9	32.9	13.5	14.9	3.6	7.7	12.6	0.5	
	女性全体	1,418	51.8	49.8	23.1	21.1	11.6	1.8	3.2	13.7	2.6	
	20～29歳	116	48.3	50.9	21.6	32.8	7.8	0.9	1.7	20.7	0.9	
	30～39歳	156	50.6	53.8	17.9	24.4	14.1	3.8	2.6	10.9	1.3	
40～49歳	248	55.2	57.3	23.0	27.8	8.5	2.4	2.8	11.3	0.8		
50～59歳	250	57.2	54.4	26.8	23.2	5.6	2.4	4.0	14.0	2.0		
60～69歳	318	49.7	49.4	27.4	18.2	13.2	1.3	1.6	11.9	4.4		
70歳以上	321	49.2	38.6	18.4	11.5	17.4	0.6	5.6	15.3	4.0		
居住年数別	3年未満	81	44.4	42.0	25.9	29.6	13.6	1.2	4.9	18.5	1.2	
	3～5年未満	46	54.3	54.3	26.1	34.8	4.3	4.3	-	17.4	-	
	5～10年未満	92	56.5	52.2	32.6	21.7	10.9	6.5	1.1	8.7	-	
	10～20年未満	206	58.7	59.2	27.2	23.8	6.3	3.9	2.9	13.1	1.0	
	20年以上	2,002	50.0	47.4	23.8	20.1	14.4	2.5	4.4	13.1	2.4	
居住地区別	門司区	235	48.5	44.7	25.1	15.7	17.0	2.6	4.7	16.2	3.8	
	小倉北区	458	49.6	50.2	25.5	24.2	12.9	4.4	3.3	10.9	2.4	
	小倉南区	517	49.3	47.0	21.7	18.0	13.0	2.7	5.0	13.3	2.5	
	若松区	222	49.1	48.6	26.1	23.0	11.7	0.5	3.6	16.7	3.6	
	八幡東区	183	57.9	49.2	24.6	23.0	14.8	3.3	1.1	15.3	-	
	八幡西区	645	51.6	49.5	25.4	23.3	13.0	2.5	5.0	11.3	1.7	
	戸畑区	145	55.9	49.0	22.8	17.2	12.4	2.1	2.8	13.1	1.4	

## 7 日本に居住する外国人の人権について

### 1. 日本に居住する外国人の人権に関する考え

問 20 日本に居住する外国人の人権について、あなたの意見に最も近いものを選んでください。

#### 【設問の趣旨】

北九州市で住民票を有する外国人の数は、令和2年（2020年）3月末時点で1万3,871人（人口比約1.5%）となっている。

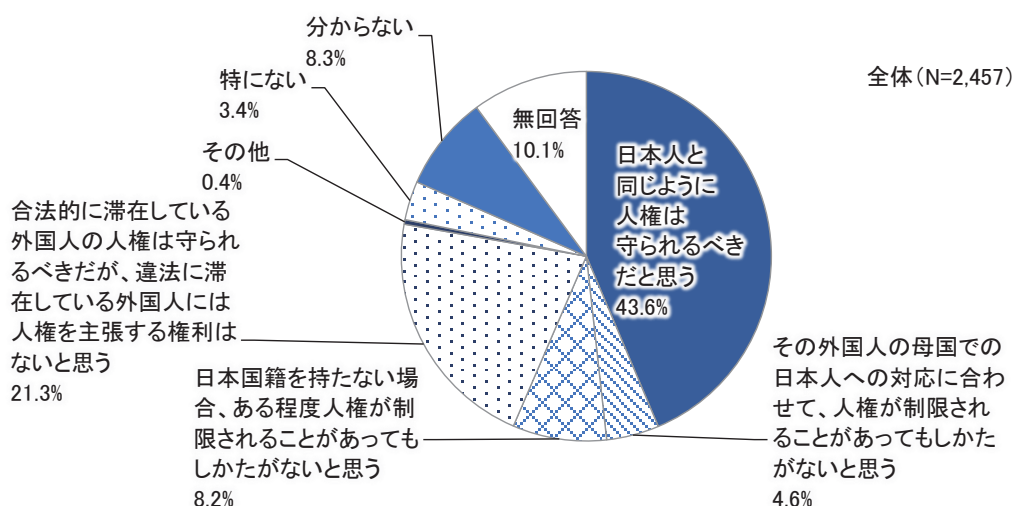
北九州市は国籍や民族の異なる人が、お互いの文化や習慣の違いを認め合い、対等な立場で共に暮らしていく「多文化共生」のまちづくりを進めている。外国人市民に対する市民の意識を知るための設問である。

#### 【全体】

日本に居住する外国人の人権に関する考えについてたずねたところ、全体では「日本人と同じように人権は守られるべきだと思う」をあげた人の割合が43.6%で最も高く、他に比べて抜きん出ている。以下、「合法的に滞在している外国人の人権は守られるべきだが、違法に滞在している外国人には人権を主張する権利はないと思う」（21.3%）、「日本国籍を持たない場合、ある程度人権が制限されることがあってもしかたがないと思う」（8.2%）、「その外国人の母国での日本人への対応に合わせて、人権が制限されることがあってもしかたがないと思う」（4.6%）と続く。なお、「特にない」と答えた人は3.4%、「分からない」と答えた人は8.3%となっている。

（無回答者が10.1%となっているが、当質問は単一回答形式であり、選択肢を複数選んだ回答者は集計処理上、無効扱いとしているためである。）

図表 2-57 日本に居住する外国人の人権に関する考え



#### 【性・年齢別】

性別にみると、全体の傾向と同じく男女いずれも「日本人と同じように人権は守られるべきだと思う」（男性42.0%、女性45.2%）が最も高く、次いで「合法的に滞在している外国人の人権は守

られるべきだが、違法に滞在している外国人には人権を主張する権利はないと思う」(男性 22.4%、女性 20.8%) の順となっている。年齢別にみても、全体の傾向と同じく男女いずれの年齢も「日本人と同じように人権は守られるべきだと思う」の割合が高くなっている。

【居住年数別】

居住年数別にみても、いずれも全体の傾向と同じく「日本人と同じように人権は守られるべきだと思う」の割合が高くなっている。

【居住地区別】

居住地区別にみても、いずれの区も全体の傾向と同じく「日本人と同じように人権は守られるべきだと思う」の割合が高くなっている。

図表 2-58 日本に居住する外国人の人権に関する考え（性・年齢別、居住年数別、居住地区別）

単位:%	サンプル数	日本人と同じように人権は守られべきだと思う	それ以外に同意がある	その程度が制限されない場合がある	日本国籍を保持しない場合がある	を主張する権利はないと思う	合法的に滞在している外国人に人権を主張する権利はないと思う	その他	特にな	分からない	無回答
全体	2,457	43.6	4.6	8.2	21.3	0.4	3.4	8.3	10.1		
性・年齢別	男性全体	979	42.0	4.5	9.8	22.4	0.6	4.3	6.0	10.4	
	20～29歳	77	42.9	6.5	7.8	19.5	1.3	3.9	13.0	5.2	
	30～39歳	77	42.9	3.9	6.5	28.6	2.6	5.2	-	10.4	
	40～49歳	155	47.7	5.8	12.3	23.9	0.6	3.9	1.9	3.9	
	50～59歳	173	42.2	3.5	10.4	21.4	-	3.5	6.4	12.7	
	60～69歳	271	39.5	6.6	11.4	22.1	0.7	3.0	5.9	10.7	
	70歳以上	222	40.1	1.4	7.7	21.2	-	6.8	8.6	14.4	
	女性全体	1,418	45.2	4.7	7.3	20.8	0.1	2.8	9.4	9.7	
	20～29歳	116	55.2	8.6	2.6	17.2	0.9	3.4	8.6	3.4	
	30～39歳	156	41.7	8.3	7.1	25.6	-	0.6	10.9	5.8	
	40～49歳	248	46.0	5.2	9.3	27.0	0.4	1.6	5.2	5.2	
	50～59歳	250	49.6	4.4	8.4	18.4	-	4.0	8.8	6.4	
60～69歳	318	45.3	4.1	6.9	20.4	-	2.5	8.2	12.6		
70歳以上	321	39.3	1.9	6.5	17.1	-	3.7	14.3	17.1		
居住年数別	3年未満	81	37.0	8.6	7.4	24.7	1.2	2.5	9.9	8.6	
	3～5年未満	46	47.8	4.3	6.5	19.6	-	2.2	13.0	6.5	
	5～10年未満	92	50.0	6.5	7.6	22.8	2.2	-	6.5	4.3	
	10～20年未満	206	53.4	2.9	9.7	17.0	-	2.4	8.7	5.8	
	20年以上	2,002	42.8	4.5	8.1	21.8	0.3	3.7	7.8	10.9	
居住地区別	門司区	235	41.7	5.5	8.5	20.9	-	5.1	8.1	10.2	
	小倉北区	458	40.6	5.5	6.3	22.1	0.4	2.8	9.6	12.7	
	小倉南区	517	42.2	3.9	8.7	22.6	0.6	3.5	7.9	10.6	
	若松区	222	43.7	4.1	7.2	22.1	0.5	3.6	8.1	10.8	
	八幡東区	183	40.4	6.0	13.1	21.3	-	4.4	6.0	8.7	
	八幡西区	645	48.1	3.9	8.2	20.3	0.5	3.3	7.4	8.4	
	戸畑区	145	49.7	4.1	6.2	20.0	-	2.1	8.3	9.7	

【人権問題への関心度別】

人権問題への関心度別にみると、『関心がある』派は男女いずれも「日本人と同じように人権は守られるべきだと思う」（男性 47.8%、女性 48.9%）が最も高く、割合は男女ともに『関心がある』派の方が『関心がない』派（男性 25.3%、女性 28.9%）よりも上回っている。なお、『関心がない』派は男女ともに「合法的に滞在している外国人の人権は守られるべきだが、違法に滞在している外国人には人権を主張する権利はないと思う」（男性 22.4%、女性 21.3%）と答えた人が「日本人と同じように人権は守られるべきだと思う」と同程度の割合となっている。また、「特にない」、「分からない」と答えた人の割合は『関心がない』派の方が『関心がある』派よりも高くなっている。

図表 2-59 日本に居住する外国人の人権に関する考え（人権問題への関心度別）

単位：%		サンプル数	日本人と同じように人権は守られるべきだと思う	その外国の母国での日本人への対応に合わせた人もしくはあつてもしかたがないと思う	その外国の母国での日本人への対応に合わせた人もしくはあつてもしかたがないと思う	程度人権が制限される場合がある	日本国籍を持たない場合、ある程度人権が制限される場合がある	を主張する権利はない人だと思ふ	合法的に滞在している外国人、外国人に滞在する権利はない人だと思ふ	その他	特にない	分からない	無回答
全体		2,457	43.6	4.6	8.2	21.3	0.4	3.4	8.3	10.1			
人権問題への関心度別	関心がある	1,909	48.2	4.5	7.6	21.4	0.3	1.8	6.5	9.7			
	男性	726	47.8	4.1	8.5	22.5	0.4	2.1	4.7	9.9			
	女性	1,140	48.9	4.7	7.0	20.9	0.1	1.7	7.5	9.2			
	その他	6	16.7	-	-	33.3	-	-	-	50.0			
	関心がない	514	27.0	5.4	10.9	21.6	1.0	9.5	14.0	10.5			
	男性	245	25.3	5.7	13.5	22.4	1.2	11.0	9.4	11.4			
	女性	253	28.9	5.1	9.1	21.3	0.4	7.9	17.4	9.9			
	その他	4	-	25.0	-	25.0	-	25.0	25.0	-			

## 2. 日本に居住する外国人の人権を守るために必要だと思うこと

問 21 日本に居住する外国人の人権を守るために、必要なことはどのようなことだと思いますか。次の中から3つ選んでください。(複数回答)

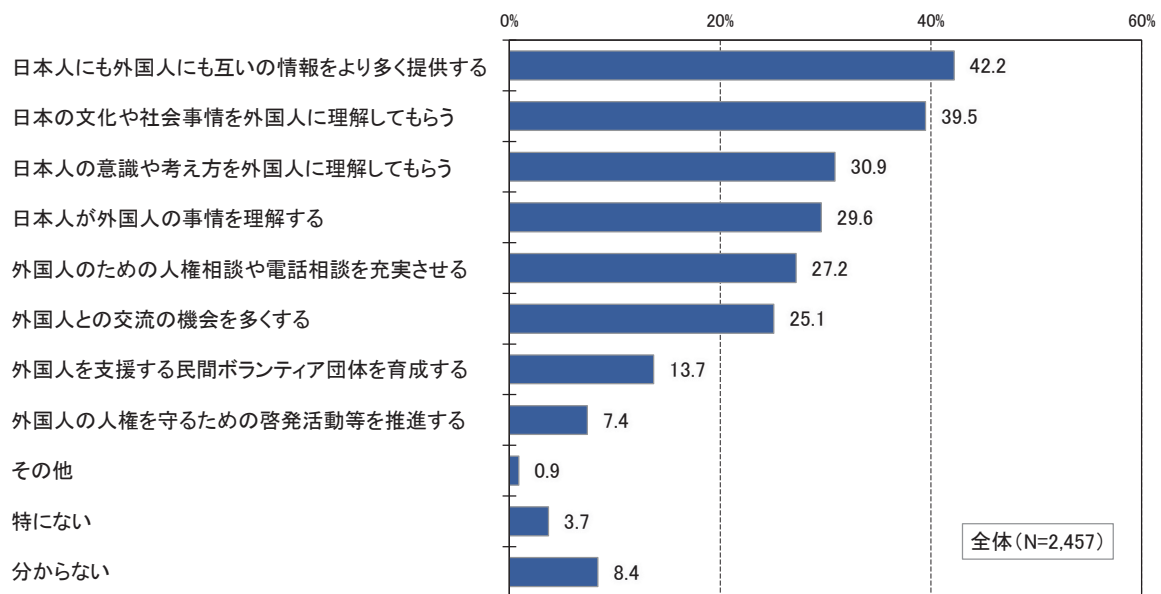
### 【設問の趣旨】

ここでは、外国人の人権を守るために必要なことをたずねた。「多文化共生」のまちづくりのために、市民がどのような取り組みが必要と考えているのかをみる設問である。

### 【全体】

日本に居住する外国人の人権を守るために必要だと思うことについてたずねたところ、全体では「日本人にも外国人にも互いの情報をより多く提供する」をあげた人の割合が42.2%で最も高く、次いで「日本の文化や社会事情を外国人に理解してもらう」(39.5%)、「日本人の意識や考え方を外国人に理解してもらう」(30.9%)、「日本人が外国人の事情を理解する」(29.6%)、「外国人のための人権相談や電話相談を充実させる」(27.2%)、「外国人との交流の機会を多くする」(25.1%)などの順となっている。なお、「特にない」と答えた人は3.7%、「分からない」と答えた人は8.4%となっている。

図表 2-60 日本に居住する外国人の人権を守るために必要だと思うこと



### 【性・年齢別】

性別にみると、男性は「日本の文化や社会事情を外国人に理解してもらう」(45.1%)が最も高く、次いで「日本人にも外国人にも互いの情報をより多く提供する」(38.3%)、「日本人の意識や考え方を外国人に理解してもらう」(36.9%)の順となっている。一方、女性は「日本人にも外国人にも互いの情報をより多く提供する」(45.6%)が最も高く、次いで「日本の文化や社会事情を外国人に理解してもらう」(36.0%)の順となっている。年齢別にみると、男性は20~29歳を除いて「日本の文化や社会事情を外国人に理解してもらう」が最も高く、男性20~29歳は「日本人にも外国人にも互いの情報をより多く提供する」(40.3%)が最も高く、次いで「日本人の意識や考

え方を外国人に理解してもらう」(37.7%)の順となっている。一方、女性は70歳以上を除いて「日本人にも外国人にも互いの情報をより多く提供する」が最も高くなっている。なお、女性70歳以上は「日本の文化や社会事情を外国人に理解してもらう」(39.3%)が最も高く、次いで「日本人にも外国人にも互いの情報をより多く提供する」(33.6%)の順となっている。

【居住年数別】

居住年数別にみると、いずれも全体の傾向と同じく「日本人にも外国人にも互いの情報をより多く提供する」の割合が最も高くなっているものの、居住年数が短い方が割合は高くなる傾向がみられる。

【居住地区別】

居住地区別にみると、門司区と八幡東区を除いて「日本人にも外国人にも互いの情報をより多く提供する」の割合が最も高くなっている。なお、門司区は「日本の文化や社会事情を外国人に理解してもらう」(40.0%)が最も高く、次いで「日本人にも外国人にも互いの情報をより多く提供する」(38.3%)の順となっている。八幡東区は「日本の文化や社会事情を外国人に理解してもらう」(42.1%)と「日本人にも外国人にも互いの情報をより多く提供する」(41.0%)がほぼ同程度の割合となっている。

図表 2-61 日本に居住する外国人の人権を守るために必要だと思うこと

(性・年齢別、居住年数別、居住地区別)

単位: %	サンプル数	日本人の情報をもっと外国人にも多く提供しあう	日本人の文化や社会事情を理解してもらう	日本人の意識や考え方を外国人に理解してもらう	日本人が外国人の事情を理解する	外国人の権利や実情を伝える	外国人との交流の機会を多くする	外国人を支援する民間ボランティアを育成する	外国人の人権を守るための啓発活動等を推進する	その他	特になし	分からない	無回答	
全体	2,457	42.2	39.5	30.9	29.6	27.2	25.1	13.7	7.4	0.9	3.7	8.4	1.6	
性・年齢別	男性全体	979	38.3	45.1	36.9	29.8	26.1	24.5	10.9	7.2	0.8	4.5	6.7	1.4
	20～29歳	77	40.3	32.5	37.7	32.5	22.1	20.8	9.1	5.2	-	3.9	9.1	3.9
	30～39歳	77	35.1	42.9	36.4	32.5	23.4	28.6	7.8	6.5	1.3	3.9	5.2	-
	40～49歳	155	40.0	45.2	35.5	31.0	20.0	29.0	13.5	6.5	2.6	5.8	3.9	0.6
	50～59歳	173	39.3	45.7	39.3	32.9	26.0	24.9	11.6	7.5	0.6	3.5	6.4	1.2
	60～69歳	271	40.6	47.2	40.2	27.3	26.2	25.1	10.7	7.7	0.4	4.4	7.4	1.1
	70歳以上	222	33.8	47.3	32.0	27.9	32.9	20.3	10.4	7.7	0.5	5.0	8.1	1.8
	女性全体	1,418	45.6	36.0	27.1	29.8	28.1	25.5	15.9	7.7	0.6	3.0	9.3	1.6
	20～29歳	116	55.2	26.7	21.6	41.4	23.3	33.6	20.7	6.9	0.9	1.7	7.8	-
	30～39歳	156	51.9	35.9	30.1	35.9	17.9	32.1	16.0	5.1	-	1.3	12.2	1.3
	40～49歳	248	51.2	38.3	29.4	37.1	19.8	28.6	15.3	7.7	0.8	1.6	7.3	0.4
50～59歳	250	50.8	34.4	26.8	29.2	28.8	24.0	14.4	11.6	1.2	3.6	9.2	0.8	
60～69歳	318	42.8	36.2	26.4	23.0	38.1	23.3	19.5	9.7	0.6	3.1	6.6	2.5	
70歳以上	321	33.6	39.3	26.8	24.3	31.5	19.3	12.8	4.0	0.3	5.0	13.1	2.8	
居住年数別	3年未満	81	54.3	40.7	32.1	33.3	22.2	30.9	9.9	3.7	-	3.7	7.4	1.2
	3～5年未満	46	47.8	34.8	23.9	39.1	28.3	32.6	13.0	13.0	2.2	2.2	4.3	-
	5～10年未満	92	44.6	39.1	29.3	40.2	22.8	22.8	10.9	8.7	1.1	1.1	7.6	-
	10～20年未満	206	43.7	38.3	24.8	38.8	26.2	27.7	13.1	12.1	0.5	1.9	8.3	1.5
	20年以上	2,002	41.7	39.9	31.9	28.0	27.8	24.6	14.2	6.9	0.8	4.0	8.5	1.5
居住地区別	門司区	235	38.3	40.0	28.9	31.1	27.7	25.1	9.8	7.2	1.3	4.7	8.9	3.0
	小倉北区	458	43.4	37.3	29.0	29.3	25.8	28.4	14.4	7.9	1.5	3.5	8.5	1.1
	小倉南区	517	42.0	40.4	34.4	29.8	28.2	22.1	12.0	7.4	0.6	4.4	8.5	1.7
	若松区	222	44.6	40.1	27.5	30.2	25.7	25.2	13.5	7.2	0.5	3.2	7.7	1.8
	八幡東区	183	41.0	42.1	31.1	36.1	26.8	23.5	17.5	6.6	0.5	2.7	7.7	1.1
	八幡西区	645	42.8	40.8	32.7	28.1	27.4	25.1	14.4	8.2	0.5	3.6	8.2	1.1
	戸畑区	145	40.7	34.5	27.6	29.7	29.7	26.9	17.9	6.2	-	3.4	7.6	2.1



## ⑧ エイズ患者やH I V感染者の人権について

### 1. エイズ患者やH I V感染者の人権が尊重されていないと思うこと

問 22 エイズ患者・H I V感染者の人権に関する事柄で、人権が尊重されていないと思うのはどのようなことですか。次の中から3つ選んでください。（複数回答）

#### 【設問の趣旨】

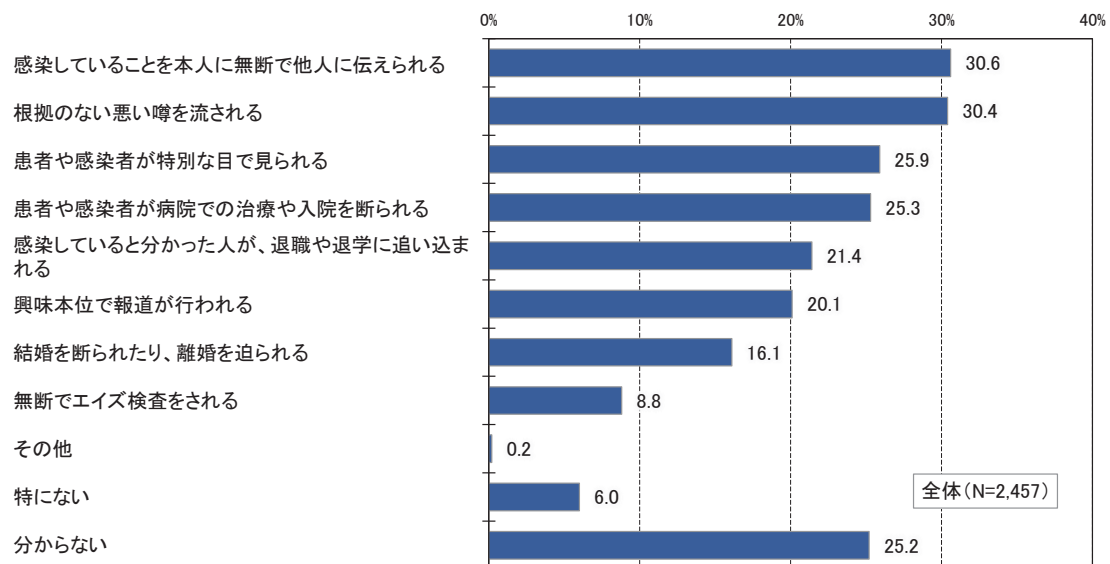
エイズ患者やH I V感染者など特定の疾患に対しては、正しい知識と理解がないために、患者やその家族などに対する偏見や差別意識などにつながる場合がある。

ここでは、エイズ患者やH I V感染者がどのような社会的不利益を受けていると感じているかをたずね、選択された内容を見ることによって、市民の問題意識がどこにあるのかを知る設問である。

#### 【全体】

エイズ患者やH I V感染者の人権が尊重されていないと思うことについてたずねたところ、全体では「感染していることを本人に無断で他人に伝えられる」をあげた人の割合が30.6%で最も高く、次いで「根拠のない悪い噂を流される」(30.4%)、「患者や感染者が特別な目で見られる」(25.9%)、「患者や感染者が病院での治療や入院を断られる」(25.3%)、「感染していると分かった人が、退職や退学に追い込まれる」(21.4%)、「興味本位で報道が行われる」(20.1%)などの順となっている。なお、「特にない」と答えた人は6.0%、「分からない」と答えた人は25.2%となっている。

図表 2-62 エイズ患者やH I V感染者の人権が尊重されていないと思うこと



#### 【性・年齢別】

性別にみると、男性は「根拠のない悪い噂を流される」(30.4%)が最も高く、次いで「感染していることを本人に無断で他人に伝えられる」と「患者や感染者が特別な目で見られる」(いずれも26.6%)の順となっている。一方、女性は「感染していることを本人に無断で他人に伝えられる」(33.8%)が最も高く、次いで「根拠のない悪い噂を流される」(30.7%)の順となっている。年

年齢別にみると、男性は50代まで、女性は20・30代で「根拠のない悪い噂を流される」が最も高く、女性40～60代は「感染していることを本人に無断で他人に伝えられる」が最も高い。なお、男性60～69歳と70歳以上、及び女性70歳以上は「分からない」と答えた人の割合が最も高くなっている。

【居住年数別】

居住年数別にみると、3年未満は「感染していることを本人に無断で他人に伝えられる」(35.8%)が最も高く、3～5年未満と5～10年未満は「根拠のない悪い噂を流される」が最も高くなっている。なお、10～20年未満と20年以上は「感染していることを本人に無断で他人に伝えられる」と「根拠のない悪い噂を流される」がほぼ同程度の割合となっている。

【居住地区別】

居住地区別にみると、八幡東区は「根拠のない悪い噂を流される」(35.5%)が最も高く、門司区と戸畑区は「患者や感染者が特別な目で見られる」が高くなっている。小倉北区、小倉南区、若松区、八幡西区は「感染していることを本人に無断で他人に伝えられる」と「根拠のない悪い噂を流される」がほぼ同程度の割合で高くなっている。

図表 2-63 エイズ患者やH I V感染者の人権が尊重されていないと思うこと  
(性・年齢別、居住年数別、居住地区別)

単位:%		サンプル数	感染していることを本人に無断で伝える	根拠のない悪い噂を流される	患者や感染者が特別な目で見られる	治療や入院を断られる	入職や退学に悩まされる	興味本位で報道が行われる	結婚を断られたり、離婚を迫られる	無断でエイズ検査をされる	その他	特になし	分からない	無回答	
全体		2,457	30.6	30.4	25.9	25.3	21.4	20.1	16.1	8.8	0.2	6.0	25.2	2.4	
性・年齢別	男性全体	979	26.6	30.4	26.6	24.6	19.3	22.2	16.1	6.7	0.2	9.2	24.1	2.2	
	20～29歳	77	23.4	35.1	27.3	23.4	26.0	16.9	22.1	3.9	-	2.6	28.6	1.3	
	30～39歳	77	32.5	41.6	35.1	22.1	20.8	20.8	14.3	7.8	-	7.8	15.6	-	
	40～49歳	155	30.3	40.6	27.7	24.5	23.9	24.5	19.4	6.5	-	7.7	18.1	1.3	
	50～59歳	173	29.5	33.5	30.6	29.5	20.8	22.0	16.2	10.4	0.6	8.1	19.7	0.6	
	60～69歳	271	23.6	25.5	25.1	24.0	16.6	25.1	15.5	5.2	-	11.4	28.0	2.2	
	70歳以上	222	24.8	21.6	21.2	23.0	15.3	19.8	13.5	6.8	0.5	11.3	28.4	5.0	
	女性全体	1,418	33.8	30.7	25.6	26.0	23.1	19.0	16.5	10.3	0.1	3.5	26.0	2.1	
	20～29歳	116	44.0	45.7	30.2	28.4	25.9	21.6	21.6	9.5	-	1.7	19.0	-	
	30～39歳	156	38.5	39.1	26.3	22.4	28.2	19.9	17.3	10.9	-	3.8	17.9	0.6	
居住年数別	3年未満	81	35.8	30.9	30.9	25.9	25.9	14.8	17.3	6.2	-	4.9	25.9	-	
	3～5年未満	46	30.4	45.7	30.4	15.2	26.1	21.7	15.2	6.5	-	2.2	21.7	-	
	5～10年未満	92	37.0	39.1	25.0	28.3	27.2	18.5	19.6	12.0	-	2.2	18.5	-	
	10～20年未満	206	33.0	33.0	23.3	29.1	24.8	20.9	20.9	8.7	0.5	3.4	25.2	1.5	
	20年以上	2,002	30.0	29.5	26.2	25.1	20.5	20.4	15.6	8.9	0.1	6.5	25.4	2.6	
	居住地区別	門司区	235	28.9	26.4	29.4	25.5	18.7	20.0	14.9	8.9	-	7.2	24.7	2.1
		小倉北区	458	32.8	32.1	28.4	26.6	22.3	19.2	16.4	9.0	-	5.5	22.5	2.6
		小倉南区	517	28.6	29.2	22.6	24.0	20.7	18.0	16.1	8.5	0.2	6.8	27.9	2.7
		若松区	222	32.4	31.5	30.2	25.2	23.0	19.4	17.6	9.0	0.5	5.0	23.9	1.8
		八幡東区	183	31.7	35.5	29.5	27.3	21.3	21.3	16.4	8.7	-	2.2	23.5	0.5
八幡西区		645	31.2	30.9	23.3	25.4	21.7	21.7	16.4	9.0	0.2	7.1	25.0	2.5	
戸畑区		145	26.2	25.5	29.7	26.9	22.8	23.4	15.9	6.9	-	4.8	26.9	2.8	

【人権問題への関心度別】

人権問題への関心度別にみると、『関心がある』派、『関心がない』派はいずれも男性が「根拠のない悪い噂を流される」、女性は「感染していることを本人に無断で他人に伝えられる」がそれぞれ最も高くなっているものの、割合は男女ともに『関心がある』派の方が『関心がない』派よりも上回っている。一方で、「分からない」と答えた人の割合は『関心がない』派が男女ともに3割を超えて『関心がある』派よりも高くなっている。

図表 2-64 エイズ患者やH I V感染者の人権が尊重されていないと思うこと（人権問題への関心度別）

単位：%		サンプル数	るに感染して無断で他人に伝えることを本人	る根拠のない悪い噂を流さ	で患者や感染者が特別な目で見られる	治療や入院を断られる	患者や感染者が病院で込まれる	感染していると分かると分かった	興味本位で報道が行われ	結婚を断られたり、離婚を迫られる	無断でエイズ検査をされる	その他	特にな	分からない	無回答
全体		2,457	30.6	30.4	25.9	25.3	21.4	20.1	16.1	8.8	0.2	6.0	25.2	2.4	
人権問題への関心度別	関心がある	1,909	33.1	32.8	28.0	27.7	23.2	22.0	17.9	9.1	0.2	4.6	21.9	2.0	
	男性	726	28.4	33.5	29.3	26.9	21.3	24.2	18.5	7.3	0.3	7.4	20.5	1.9	
	女性	1,140	36.3	32.7	27.4	28.4	24.6	21.0	18.1	10.4	0.2	2.5	22.8	1.7	
	その他	6	16.7	33.3	16.7	33.3	-	-	16.7	-	-	16.7	16.7	16.7	
	関心がない	514	22.4	22.6	17.9	17.3	15.4	12.8	10.3	7.6	-	11.5	37.2	2.3	
	男性	245	20.8	22.4	17.6	18.0	13.1	15.1	9.8	5.3	-	14.7	35.1	2.4	
	女性	253	24.5	23.3	17.8	17.0	17.0	10.7	11.1	9.9	-	7.9	39.1	2.0	
その他	4	-	-	-	-	25.0	25.0	-	25.0	-	25.0	50.0	-		

## 2. エイズ患者やH I V感染者の人権を守るために必要だと思うこと

問 23 エイズ患者・H I V感染者の人権を守るために、必要なことはどのようなことだと思いますか。次の中から3つ選んでください。(複数回答)

### 【設問の趣旨】

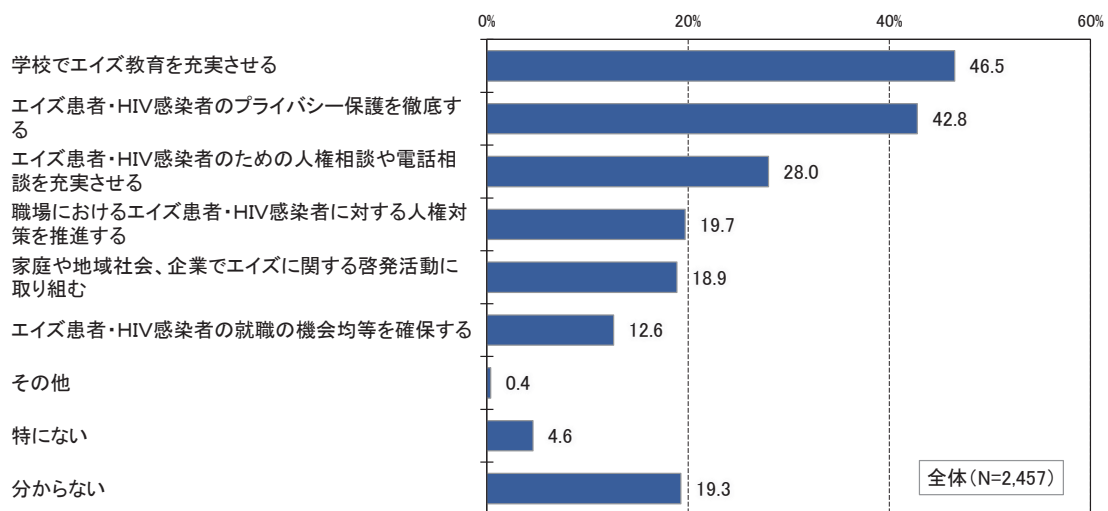
前問(問 22)ではエイズ患者・H I V感染者の人権が尊重されていないと思われる事項から、市民の問題意識がどこにあるのかをみた。ここでは、エイズ患者・H I V感染者の人権を守るために必要なことをたずねた。

選択された内容を見ることによって、市民がそれらの問題解決にどう取り組むべきと考えているのかを知るための設問である。

### 【全体】

エイズ患者やH I V感染者の人権を守るために必要だと思うことについてたずねたところ、全体では「学校でエイズ教育を充実させる」をあげた人の割合が46.5%で最も高く、次いで「エイズ患者・H I V感染者のプライバシー保護を徹底する」(42.8%)の順で、この2項目が他に比べて高くなっている。なお、「特にない」と答えた人は4.6%、「分からない」と答えた人は19.3%となっている。

図表 2-65 エイズ患者やH I V感染者の人権を守るために必要だと思うこと



### 【性・年齢別】

性別にみると、全体の傾向と同じく男女いずれも「学校でエイズ教育を充実させる」(男性 45.7%、女性 47.4%)が最も高く、次いで「エイズ患者・H I V感染者のプライバシー保護を徹底する」(男性 38.7%、女性 46.3%)の順となっているものの、「エイズ患者・H I V感染者のプライバシー保護を徹底する」は女性の方が男性よりも7.6ポイント上回っている。年齢別にみると、全体の傾向と同じく男女いずれの年齢も「学校でエイズ教育を充実させる」と「エイズ患者・H I V感染者のプライバシー保護を徹底する」の割合が高くなっている。

### 【居住年数別】

居住年数別にみると、順位は異なるものの、いずれも全体の傾向と同じく「学校でエイズ教育を

充実させる」と「エイズ患者・H I V感染者のプライバシー保護を徹底する」の割合が高くなっている。

【居住地区別】

居住地区別にみても、順位は異なるものの、いずれの区も全体の傾向と同じく「学校でエイズ教育を充実させる」と「エイズ患者・H I V感染者のプライバシー保護を徹底する」の割合が高くなっている。

図表 2-66 エイズ患者やH I V感染者の人権を守るために必要だと思うこと  
(性・年齢別、居住年数別、居住地区別)

単位:%	サンプル数	学校でエイズ教育を充実させる	エイズ患者・H I V感染者のプライバシー保護を徹底する	エイズ患者・H I V感染者の人権を保護する	エイズ患者・H I V感染者の人権を推進する	職場におけるエイズ患者の人権を保護する	家庭や地域社会、企業活動でエイズに関与する啓発活動	エイズ患者・H I V感染者の就業機会均等を確保する	その他	特になし	分からない	無回答
全体	2,457	46.5	42.8	28.0	19.7	18.9	12.6	0.4	4.6	19.3	2.0	
性・年齢別	男性全体	979	45.7	38.7	27.3	20.5	21.2	12.4	0.9	7.4	19.4	1.9
	20～29歳	77	49.4	44.2	23.4	22.1	10.4	13.0	-	2.6	19.5	1.3
	30～39歳	77	50.6	46.8	22.1	14.3	15.6	18.2	1.3	7.8	13.0	-
	40～49歳	155	50.3	42.6	23.2	21.3	18.7	20.6	1.9	6.5	14.8	0.6
	50～59歳	173	56.1	43.9	26.6	17.3	28.3	12.7	2.3	4.6	13.9	1.7
	60～69歳	271	40.6	34.7	29.2	24.7	23.2	10.3	0.4	9.6	23.2	1.5
	70歳以上	222	37.8	32.0	31.5	19.4	20.3	6.3	-	9.0	24.8	4.1
	女性全体	1,418	47.4	46.3	28.6	19.3	17.3	13.2	0.1	2.4	19.0	1.8
	20～29歳	116	56.0	63.8	25.0	25.9	12.9	21.6	-	0.9	12.9	-
	30～39歳	156	60.3	57.1	17.9	22.4	13.5	17.9	-	1.9	12.2	0.6
	40～49歳	248	57.3	54.0	25.8	19.0	22.2	14.9	-	0.8	13.7	1.2
50～59歳	250	46.4	49.6	24.8	24.0	22.4	18.0	0.8	1.6	15.6	1.6	
60～69歳	318	44.0	42.5	35.8	18.6	17.3	9.7	-	1.9	19.8	2.2	
70歳以上	321	34.3	30.2	34.0	12.8	12.8	5.9	-	5.6	29.9	3.1	
居住年数別	3年未満	81	46.9	53.1	22.2	22.2	23.5	17.3	1.2	3.7	16.0	-
	3～5年未満	46	54.3	52.2	26.1	19.6	19.6	19.6	2.2	4.3	10.9	-
	5～10年未満	92	48.9	51.1	22.8	23.9	18.5	21.7	-	3.3	16.3	-
	10～20年未満	206	56.8	50.5	25.2	21.8	16.5	12.1	0.5	2.4	14.6	1.5
	20年以上	2,002	45.3	41.2	29.0	19.3	18.9	12.0	0.4	4.8	20.1	2.2
居住地区別	門司区	235	46.4	38.7	31.1	20.0	20.0	8.5	0.4	5.5	22.1	2.1
	小倉北区	458	41.9	43.9	29.3	20.5	21.4	14.2	1.1	4.4	17.5	2.2
	小倉南区	517	46.0	44.1	27.7	17.4	16.6	11.6	0.6	4.3	19.9	2.5
	若松区	222	44.6	42.8	26.1	19.4	17.6	12.6	-	5.4	21.2	1.8
	八幡東区	183	49.2	45.9	25.7	20.8	18.0	15.3	-	2.7	18.6	1.6
	八幡西区	645	49.5	41.6	27.9	21.7	19.4	13.6	0.3	4.8	17.4	1.9
	戸畑区	145	49.0	44.1	27.6	18.6	15.9	10.3	-	4.8	22.1	0.7

## ⑨ インターネットやSNSによる人権侵害について

### 1. インターネットやSNSに関して人権が尊重されていないと思うこと

問 24 インターネットやSNSに関する事柄で、人権が尊重されていないと思うのはどのようなことですか。次の中から3つ選んでください。(複数回答)

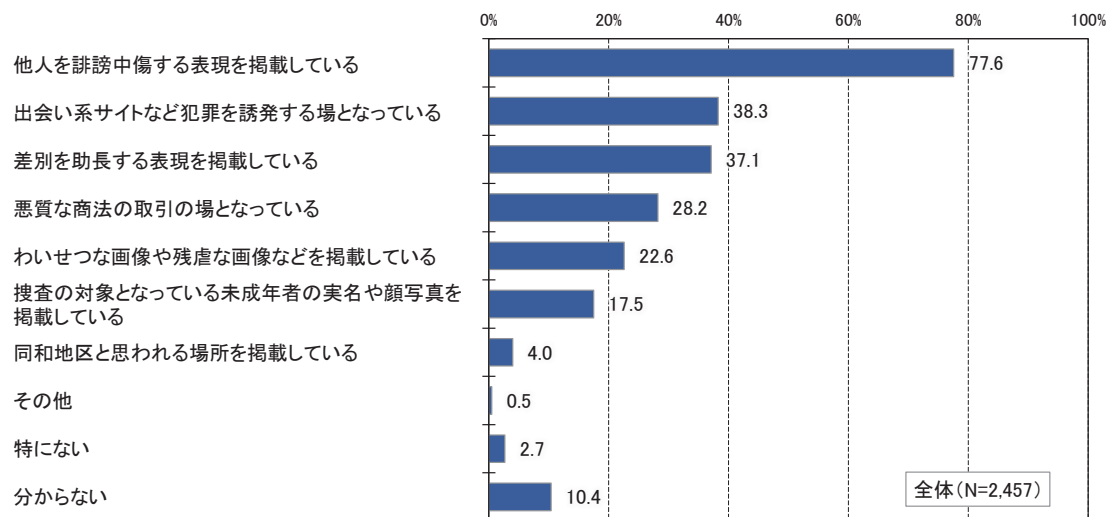
#### 【設問の趣旨】

インターネットやSNSは様々な情報を入手、発信しやすいことから、現代社会において非常に利便性の高いツールであるとともに、匿名性や情報発信の容易さから、特定の個人への攻撃や誹謗・中傷など、人権にかかわる問題につながりやすい側面を持つ。この設問は、インターネットやSNSに関してはどのような事項が人権侵害につながると認識しているのかをみるものである。

#### 【全体】

インターネットやSNSに関しての人権が尊重されていないと思うことについてたずねたところ、全体では「他人を誹謗中傷する表現を掲載している」をあげた人の割合が77.6%で最も高く、他に比べて抜きん出ている。以下、「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっている」(38.3%)、「差別を助長する表現を掲載している」(37.1%)、「悪質な商法の取引の場となっている」(28.2%)、「わいせつな画像や残虐な画像などを掲載している」(22.6%)と続く。なお、「特にない」と答えた人は2.7%、「分からない」と答えた人は10.4%となっている。

図表 2-67 インターネットやSNSに関して人権が尊重されていないと思うこと



#### 【性・年齢別】

性別にみると、全体の傾向と同じく男女いずれも「他人を誹謗中傷する表現を掲載している」(男性77.2%、女性78.5%)が最も高く、他に比べて抜きん出ている。なお、「差別を助長する表現を掲載している」(男性42.4%、女性33.9%)、「悪質な商法の取引の場となっている」(男性32.6%、女性25.3%)などは男性の方が、「わいせつな画像や残虐な画像などを掲載している」(男性16.8%、



女性 26.6%) は女性の方が、それぞれ割合が高くなっている。年齢別にみると、全体の傾向と同じく男女いずれも「他人を誹謗中傷する表現を掲載している」が他の項目に比べて突出している。なお、男女とも 70 歳以上は「分からない」と答えた人の割合が 2 割みられる。

【居住年数別】

居住年数別にみると、いずれも全体の傾向と同じく「他人を誹謗中傷する表現を掲載している」が他の項目に比べて突出している。

【居住地区別】

居住地区別にみても、いずれの区も全体の傾向と同じく「他人を誹謗中傷する表現を掲載している」が他の項目に比べて突出している。

図表 2-68 インターネットや SNS に関して人権が尊重されていないと思うこと  
(性・年齢別、居住年数別、居住地区別)

単位: %		サンプル数	他人を誹謗中傷する表現を掲載している	出会い系サイトなどを誘発する場となっており	差別を助長する表現を掲載している	悪質な商法の取引の場となっている	画像などを掲載している	未成年者の実名や顔写真を掲載している	同和地区と思われる場所を掲載している	その他	特にな	分からない	無回答
全体		2,457	77.6	38.3	37.1	28.2	22.6	17.5	4.0	0.5	2.7	10.4	1.9
性・年齢別	男性全体	979	77.2	38.0	42.4	32.6	16.8	14.7	4.2	0.5	4.1	9.3	1.9
	20～29歳	77	87.0	29.9	49.4	37.7	11.7	16.9	5.2	-	3.9	2.6	2.6
	30～39歳	77	77.9	37.7	54.5	24.7	23.4	14.3	6.5	1.3	3.9	2.6	-
	40～49歳	155	82.6	32.9	43.2	36.1	13.5	15.5	3.2	1.9	2.6	5.8	1.9
	50～59歳	173	87.9	32.9	49.1	35.3	20.2	17.9	5.8	-	2.9	3.5	-
	60～69歳	271	75.6	43.9	39.9	34.7	15.1	12.9	3.3	-	5.5	9.6	1.8
	70歳以上	222	63.5	41.4	32.9	26.6	18.0	13.5	3.6	0.5	4.5	20.7	3.6
	女性全体	1,418	78.5	39.4	33.9	25.3	26.6	19.2	4.0	0.5	1.6	10.9	1.7
	20～29歳	116	88.8	29.3	44.8	24.1	25.0	28.4	9.5	0.9	-	6.9	-
	30～39歳	156	83.3	29.5	35.9	26.9	40.4	18.6	3.8	-	0.6	4.5	1.9
	40～49歳	248	90.7	31.9	46.8	29.0	33.5	21.8	3.2	0.8	0.8	4.0	0.4
50～59歳	250	84.4	41.2	37.2	27.2	30.4	22.0	3.2	0.8	1.6	5.6	1.6	
60～69歳	318	78.6	47.2	30.2	24.5	23.3	19.2	2.8	0.3	1.3	11.6	1.9	
70歳以上	321	59.2	44.9	20.9	21.8	15.3	11.5	4.4	0.3	3.7	23.1	3.1	
居住年数別	3年未満	81	76.5	33.3	40.7	32.1	23.5	25.9	3.7	1.2	6.2	3.7	2.5
	3～5年未満	46	82.6	34.8	37.0	32.6	21.7	15.2	6.5	-	2.2	2.2	-
	5～10年未満	92	91.3	39.1	41.3	19.6	30.4	18.5	6.5	1.1	2.2	2.2	-
	10～20年未満	206	81.6	31.6	47.1	28.2	22.8	13.6	3.9	-	0.5	10.7	1.9
	20年以上	2,002	76.9	39.6	36.0	28.4	22.2	17.5	3.9	0.5	2.7	11.1	1.8
居住地区別	門司区	235	77.9	41.3	36.2	31.9	19.6	15.3	3.0	0.4	2.1	9.8	2.6
	小倉北区	458	78.2	37.6	40.2	29.7	24.0	18.6	4.1	0.4	2.0	10.0	1.3
	小倉南区	517	75.4	36.2	36.6	27.1	23.6	16.1	4.3	0.6	2.9	12.0	2.3
	若松区	222	80.6	40.5	35.1	30.6	19.8	15.8	2.3	0.5	2.3	9.5	2.7
	八幡東区	183	79.2	39.9	38.3	26.8	24.6	15.8	5.5	1.6	1.6	10.9	0.5
	八幡西区	645	78.1	40.0	36.9	27.1	21.7	18.9	4.7	0.2	3.3	9.3	1.7
	戸畑区	145	76.6	36.6	35.2	22.8	26.2	18.6	4.1	-	4.8	11.0	1.4



【人権問題への関心度別】

人権問題への関心度別にみると、『関心がある』派、『関心がない』派の男女いずれも「他人を誹謗中傷する表現を掲載している」が他の項目に比べて突出しているものの、割合は男女ともに『関心がある』派の方が『関心がない』派よりも上回っている。一方で、「分からない」と答えた人の割合は『関心がない』派の方が『関心がある』派よりも高く、特に『関心がない』派の女性は「分からない」が21.3%を占めている。

図表 2-69 インターネットやSNSに関して人権が尊重されていないと思うこと  
(人権問題への関心度別)

単位: %		サンプル数	他人を誹謗中傷する表現を掲載している	出会い系サイトなど犯罪を誘発する場	差別を助長する表現を掲載している	悪質な商法の取引の場となつている	画像などを掲載して残虐な画像などを掲載している	未成年者の実名や顔写真を掲載している	捜査の対象となつている	同和地区と思われる場所を掲載している	その他	特にな	分からない	無回答
全体		2,457	77.6	38.3	37.1	28.2	22.6	17.5	4.0	0.5	2.7	10.4	1.9	
人権問題への関心度別	関心がある	1,909	81.7	39.4	40.2	29.1	23.6	19.1	4.5	0.6	1.8	8.1	1.4	
	男性	726	80.7	39.3	45.3	33.9	17.1	15.6	4.7	0.7	2.9	7.7	1.7	
	女性	1,140	82.9	40.2	37.4	26.1	27.6	21.0	4.6	0.4	1.1	8.1	1.1	
	その他	6	83.3	66.7	50.0	16.7	16.7	66.7	-	-	-	-	-	
	関心がない	514	65.0	35.2	26.7	25.7	19.5	11.9	2.3	0.4	6.0	17.7	2.5	
	男性	245	68.2	34.7	34.3	29.0	15.5	12.2	2.9	-	7.8	13.5	2.0	
	女性	253	62.8	37.5	19.8	23.3	23.7	11.9	2.0	0.8	4.0	21.3	2.4	
	その他	4	50.0	25.0	-	-	-	25.0	-	-	25.0	25.0	-	

## 10 LGBT（性的少数者）の人権について

### 1. LGBT（性的少数者）の人権が尊重されていないと思うこと

問 25 LGBT（性的少数者）の人権に関する事柄で、人権が尊重されていないと思うのはどのようなことですか。次の中から3つ選んでください。（複数回答）

#### 【設問の趣旨】

性的指向（人の恋愛、性愛がどういう対象に向かうかを示す概念）が一般的な固定観念と異なっている人々や、性自認（性の自己認識）と生物学的な性が一致していない人々は、社会生活上様々な問題を抱えるほか、周囲の人からの偏見や差別によって不利益を受けることがある。

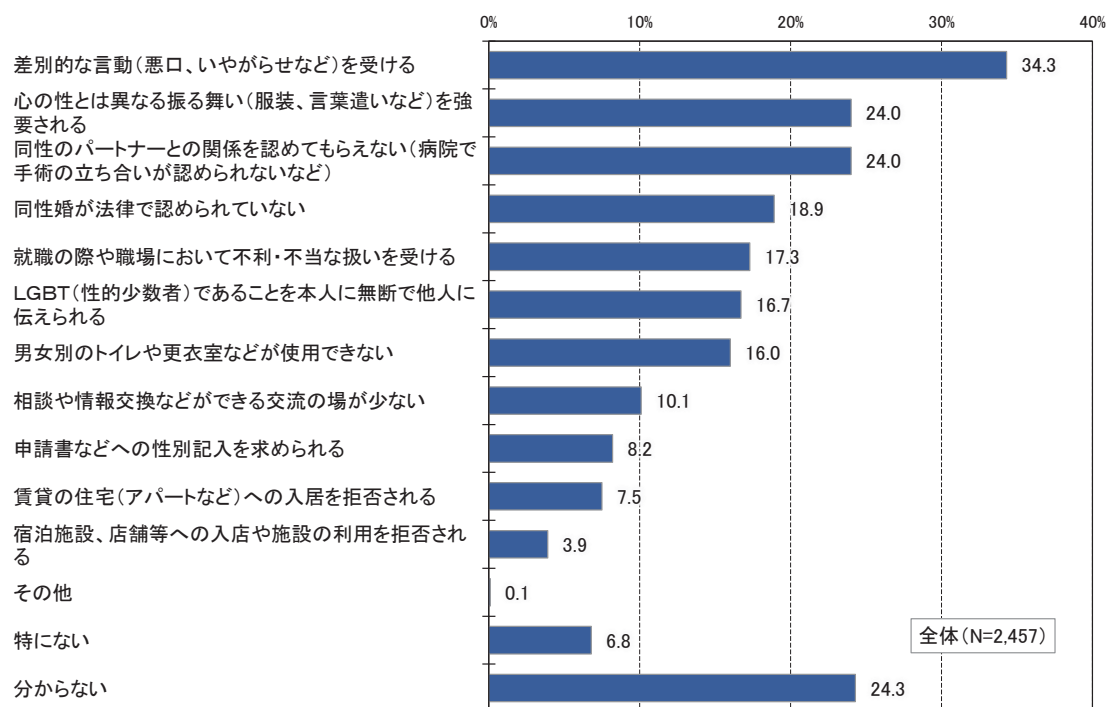
現在では性的指向や性自認を理由とする差別的取り扱いが不当なことであるという認識が広がっているが、いまだ偏見や差別があるのが現状である。

ここでは、LGBT（性的少数者）がどのような社会的不利益を受けていると思うかをたずねた。市民の問題意識がどこにあるのかを知るための設問である。

#### 【全体】

LGBT（性的少数者）の人権が尊重されていないと思うことについてたずねたところ、全体では「差別的な言動（悪口、いやがらせなど）を受ける」をあげた人の割合が34.3%で最も高く、次いで「心の性とは異なる振る舞い（服装、言葉遣いなど）を強要される」及び「同性のパートナーとの関係を認めてもらえない（病院で手術の立ち合いが認められないなど）」（いずれも24.0%）の順となっている。なお、「特にない」と答えた人は6.8%、「分からない」と答えた人は24.3%となっている。

図表 2-70 LGBT（性的少数者）の人権が尊重されていないと思うこと



### 【性・年齢別】

性別にみると、男性は「差別的な言動（悪口、いやがらせなど）を受ける」（34.2%）が最も高く、次いで「心の性とは異なる振る舞い（服装、言葉遣いなど）を強要される」（21.8%）、「同性のパートナーとの関係を認めてもらえない（病院で手術の立ち合いが認められないなど）」（19.5%）の順となっている。女性も「差別的な言動（悪口、いやがらせなど）を受ける」（34.6%）が最も高いものの、次いで「同性のパートナーとの関係を認めてもらえない（病院で手術の立ち合いが認められないなど）」（27.0%）、「心の性とは異なる振る舞い（服装、言葉遣いなど）を強要される」（25.7%）の順で、「同性のパートナーとの関係を認めてもらえない（病院で手術の立ち合いが認められないなど）」は女性の方が男性よりも 7.5 ポイント上回っている。年齢別にみると、全体の傾向と同じく男女いずれも「差別的な言動（悪口、いやがらせなど）を受ける」が最も高くなっている。なお、男女とも 60～69 歳と 70 歳以上は「分からない」と答えた人の割合が 3 割前後みられ、他の年齢に比べて高くなっている。

### 【居住年数別】

居住年数別にみると、いずれも全体の傾向と同じく「差別的な言動（悪口、いやがらせなど）を受ける」が最も高くなっている。なお、居住年数が長い方が「分からない」と答えた人の割合は高くなる傾向がみられる。

### 【居住地区別】

居住地区別にみても、いずれの区も全体の傾向と同じく「差別的な言動（悪口、いやがらせなど）を受ける」が最も高くなっている。

図表 2-71 LGBT（性的少数者）の人権が尊重されていないと思うこと

（性・年齢別、居住年数別、居住地区別）

単位：%	サンプル数	差別的な言動（悪口、いやがらせなど）を受ける	服装、言葉遣いなどを強要される	立ち回りが認められない（病院で手術の心遣いなど）	同性パートナーとの関係が認められない	同性婚が法律で認められていない	就職の際や職場において不利・不当な扱いを受ける	就職の際や職場において不利・不当な扱いを受ける	LGBT（性的少数者）であることを本人に無断で他人に伝えられる	男女別のトイレや更衣室などが使用できない	男女別のトイレや更衣室などが使用できない	相談や情報交換などができる交流の場が少ない	申請書などへの性別記入を求められる	賃貸の住宅（アパートなど）への入居を拒否される	宿泊施設、店舗等への入店や施設の利用を拒否される	その他	特になし	分からない	無回答
全体	2,457	34.3	24.0	24.0	18.9	17.3	16.7	16.0	10.1	8.2	7.5	3.9	0.1	6.8	24.3	3.1			
性・年齢別	男性全体	979	34.2	21.8	19.5	17.0	15.5	15.5	14.7	9.6	7.6	7.2	3.4	0.1	9.7	24.7	3.6		
	20～29歳	77	44.2	27.3	33.8	35.1	20.8	13.0	15.6	6.5	6.5	9.1	6.5	-	2.6	11.7	2.6		
	30～39歳	77	42.9	39.0	22.1	29.9	15.6	16.9	19.5	11.7	6.5	7.8	2.6	-	7.8	15.6	1.3		
	40～49歳	155	31.0	27.7	23.9	21.3	13.5	18.1	20.6	10.3	9.0	9.7	4.5	-	9.7	17.4	1.9		
	50～59歳	173	38.7	26.0	20.8	17.3	16.2	21.4	17.9	14.5	10.4	11.0	5.2	-	7.5	18.5	2.3		
	60～69歳	271	33.2	19.6	16.6	12.9	15.1	13.7	11.8	9.2	7.7	4.4	2.6	0.4	11.4	29.5	3.3		
	70歳以上	222	27.9	9.5	13.1	8.1	14.9	12.2	9.9	6.3	5.0	4.5	1.4	-	12.6	36.5	6.8		
	女性全体	1,418	34.6	25.7	27.0	20.2	18.8	17.7	17.3	10.4	8.4	7.8	4.4	0.1	4.6	24.0	2.7		
	20～29歳	116	40.5	36.2	36.2	40.5	19.8	21.6	30.2	7.8	10.3	12.1	8.6	0.9	0.9	12.1	0.9		
	30～39歳	156	42.3	39.7	34.6	35.9	19.9	21.2	23.1	14.1	13.5	3.8	3.2	-	0.6	8.3	0.6		
40～49歳	248	43.5	41.1	35.5	25.0	26.2	23.0	21.4	12.1	9.7	14.5	6.9	-	2.4	9.7	1.2			
50～59歳	250	36.8	29.2	29.6	18.4	23.6	20.0	14.8	11.6	8.0	8.0	4.8	-	3.2	20.8	0.8			
60～69歳	318	34.0	17.6	26.4	14.2	15.4	16.0	14.8	9.7	7.2	6.3	2.5	0.3	5.3	31.8	2.5			
70歳以上	321	20.6	8.7	12.1	9.0	12.1	9.7	10.9	7.8	5.6	3.7	2.8	-	9.7	42.4	7.2			
居住年数別	3年未満	81	35.8	22.2	25.9	28.4	18.5	24.7	16.0	11.1	9.9	8.6	7.4	-	3.7	16.0	1.2		
	3～5年未満	46	50.0	34.8	32.6	32.6	19.6	13.0	15.2	10.9	6.5	8.7	4.3	-	4.3	8.7	2.2		
	5～10年未満	92	37.0	34.8	35.9	31.5	18.5	16.3	22.8	13.0	10.9	12.0	8.7	-	6.5	13.0	1.1		
	10～20年未満	206	40.8	37.9	26.7	22.8	22.8	17.5	23.3	7.8	11.2	7.3	6.8	0.5	3.9	19.9	2.4		
	20年以上	2,002	33.4	21.9	23.0	17.4	16.7	16.4	15.2	10.1	7.7	7.2	3.3	0.1	7.3	25.8	3.3		
居住地区別	門司区	235	32.8	27.2	21.7	19.1	17.4	14.9	16.2	11.1	5.1	7.2	3.0	-	7.7	25.1	4.7		
	小倉北区	458	33.6	22.3	28.6	20.1	19.4	19.4	15.5	11.4	7.4	8.3	5.2	0.2	7.2	21.4	2.6		
	小倉南区	517	33.1	24.2	24.4	19.5	13.7	15.7	14.3	9.1	8.9	7.4	3.7	0.2	6.4	25.0	4.1		
	若松区	222	35.1	22.1	23.0	15.8	16.7	14.4	13.5	5.9	7.7	5.0	4.1	-	6.8	29.7	3.2		
	八幡東区	183	38.8	28.4	24.6	18.0	18.0	15.3	15.3	8.7	7.1	7.1	4.9	-	5.5	26.8	0.5		
	八幡西区	645	35.7	25.0	20.9	18.4	19.1	17.7	18.9	11.2	9.3	7.6	3.4	0.2	7.6	22.5	2.9		
	戸畑区	145	31.7	15.9	26.2	21.4	16.6	13.8	19.3	10.3	7.6	9.7	2.8	-	5.5	26.2	1.4		

【人権問題への関心度別】

人権問題への関心度別にみると、『関心がある』派、『関心がない』派の男女いずれも「差別的な言動（悪口、いやがらせなど）を受ける」が最も高くなっているものの、割合は男女ともに『関心がある』派の方が『関心がない』派よりも上回っている。また、『関心がある』派の「同性のパートナーとの関係を認めてもらえない（病院で手術の立ち合いが認められないなど）」は女性の方が男性よりも 7.6 ポイント上回っている。なお、「分からない」と答えた人の割合は『関心がない』派の方が『関心がある』派よりも高く、男性が 37.6%、女性は 35.6%を占めている。

図表 2-72 LGBT（性的少数者）の人権が尊重されていないと思うこと（人権問題への関心度別）

単位：%		サンプル数	差別的な言動（悪口、いやがらせなど）を受ける	服装、言葉遣いなど（強要される）	心の性とは異なる振る舞い（服立の性とは異なる）	立ち合いが認められない（病院で手術の立ち合いが認められないなど）	同性のパートナーとの関係を認められない	同性婚が法律で認められていない	就職の際や職場において不利・不当な扱いを受ける	LGBT（性的少数者）であることを本人に無断で他人に伝える	男女別のトイレや更衣室などが使用できない	男女別のトイレや更衣室などが使用できない	相談や情報交換などができる交流の場が少ない	申請書などへの性別記入を求められる	賃貸の住宅（アパートなど）への入居を拒否される	宿泊施設、店舗等への入店や施設の利用を拒否される	その他	特になし	分からない	無回答
全体		2,457	34.3	24.0	24.0	18.9	17.3	16.7	16.0	10.1	8.2	7.5	3.9	0.1	6.8	24.3	3.1			
人権問題への関心度別	関心がある	1,909	37.5	26.7	26.0	20.2	19.5	18.7	17.8	11.1	9.0	7.8	4.2	0.2	5.2	20.9	2.6			
	男性	726	37.1	24.9	21.2	18.2	18.0	17.2	16.8	10.9	8.8	7.4	3.7	0.1	8.3	20.4	3.6			
	女性	1,140	37.9	27.9	28.8	21.4	20.8	19.7	18.7	11.0	8.8	8.1	4.6	0.2	3.1	21.2	1.8			
	その他	6	16.7	-	50.0	50.0	-	33.3	16.7	33.3	33.3	-	-	-	16.7	16.7	-			
	関心がない	514	24.1	15.0	17.7	15.4	9.7	10.3	10.7	6.6	6.0	6.8	3.3	-	12.5	36.4	3.1			
	男性	245	26.1	12.7	14.7	13.9	8.6	10.6	9.0	6.1	4.1	6.1	2.4	-	13.9	37.6	2.4			
	女性	253	22.5	17.4	20.9	16.6	10.7	10.3	12.6	7.5	7.5	7.1	4.0	-	10.7	35.6	3.6			
	その他	4	-	25.0	25.0	75.0	-	-	-	-	-	25.0	50.0	25.0	-	25.0	-			

## 2. 市が実施しているLGBT（性的少数者）の支援策「パートナーシップ宣誓制度」の認知度

問 26 あなたは、北九州市がLGBT（性的少数者）の支援策として実施している、「パートナーシップ宣誓制度」を知っていますか。

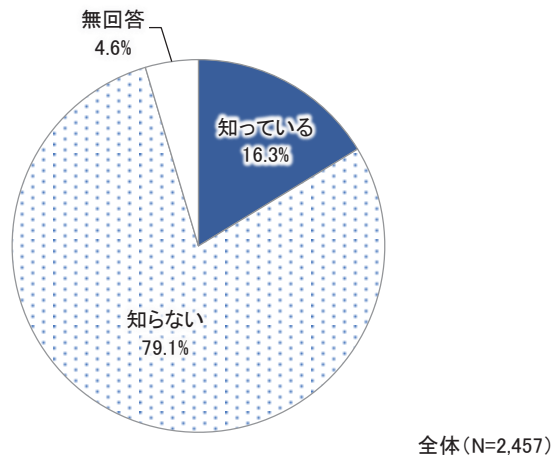
### 【設問の趣旨】

北九州市では、令和元年（2019年）7月、市民一人ひとりが互いに価値観や個性の違いを認め合い、多様性が認められる社会を目指すことを目的として、「北九州市パートナーシップ宣誓制度」を導入した。その認知度をたずね、制度の周知状況を知るための設問である。

### 【全体】

北九州市がLGBT（性的少数者）の支援策として実施している「パートナーシップ宣誓制度」の認知状況についてみると、全体では「知らない」と答えた人が79.1%と、大半を占めている。なお、「知っている」と答えた人は16.3%となっている。

図表 2-73 市が実施しているLGBT（性的少数者）の支援策「パートナーシップ宣誓制度」の認知度



### 【性・年齢別】

性別にみると、男女いずれも「知らない」（男性79.9%、女性79.0%）と答えた人が約8割を占める。なお、「知っている」と答えた人は男性が14.9%、女性は17.1%となっている。年齢別にみると、男女いずれの年齢も「知らない」人が大半を占める。なお、「知っている」人の割合が最も高いのは、女性40～49歳（25.0%）、次いで女性50～59歳（21.2%）の順となっている。

### 【居住年数別】

居住年数別にみると、いずれも全体の傾向と同じく「知らない」人が大半を占める。

### 【居住地区別】

居住地区別にみても、いずれの区も全体の傾向と同じく「知らない」人が大半を占める。なお、「知っている」人の割合は若松区（18.9%）が最も高く、次いで小倉北区（18.3%）、門司区（17.4%）、八幡東区（16.9%）、戸畑区（15.9%）、八幡西区（15.3%）、小倉南区（14.5%）の順となっている。

図表 2-74 市が実施しているLGBT（性的少数者）の支援策「パートナーシップ宣誓制度」の認知度  
 （性・年齢別、居住年数別、居住地区別）

単位：%		サンプル数	知っている	知らない	無回答
全体		2,457	16.3	79.1	4.6
性・年齢別	男性全体	979	14.9	79.9	5.2
	20～29歳	77	14.3	83.1	2.6
	30～39歳	77	9.1	87.0	3.9
	40～49歳	155	16.1	80.6	3.2
	50～59歳	173	19.1	78.6	2.3
	60～69歳	271	14.8	79.3	5.9
	70歳以上	222	13.1	77.9	9.0
	女性全体	1,418	17.1	79.0	3.9
	20～29歳	116	14.7	84.5	0.9
	30～39歳	156	17.9	79.5	2.6
	40～49歳	248	25.0	73.4	1.6
	50～59歳	250	21.2	74.0	4.8
	60～69歳	318	15.7	81.1	3.1
	70歳以上	321	10.0	82.6	7.5
居住年数別	3年未満	81	16.0	82.7	1.2
	3～5年未満	46	13.0	84.8	2.2
	5～10年未満	92	16.3	82.6	1.1
	10～20年未満	206	15.5	80.6	3.9
	20年以上	2,002	16.6	78.6	4.8
居住地区別	門司区	235	17.4	77.9	4.7
	小倉北区	458	18.3	76.6	5.0
	小倉南区	517	14.5	80.5	5.0
	若松区	222	18.9	77.5	3.6
	八幡東区	183	16.9	78.1	4.9
	八幡西区	645	15.3	81.1	3.6
	戸畑区	145	15.9	77.9	6.2

【人権問題への関心度別】

人権問題への関心度別にみると、『関心がある』派、『関心がない』派の男女いずれも「知らない」人が大半を占めるものの、「知っている」人の割合は男女ともに『関心がある』派（男性 17.8%、女性 18.9%）の方が『関心がない』派（男性 6.9%、女性 9.5%）よりも上回っている。

図表 2-75 市が実施しているLGBT（性的少数者）の支援策「パートナーシップ宣誓制度」の認知度  
 （人権問題への関心度別）

単位：%		サンプル数	知っている	知らない	無回答
全体		2,457	16.3	79.1	4.6
人権問題への関心度別	関心がある	1,909	18.5	77.8	3.7
	男性	726	17.8	77.8	4.4
	女性	1,140	18.9	78.1	3.1
	その他	6	50.0	50.0	-
	関心がない	514	8.2	85.6	6.2
	男性	245	6.9	86.5	6.5
	女性	253	9.5	85.4	5.1
その他	4	-	100.0	-	



### 3. LGBT（性的少数者）の人権を守るために必要だと思うこと

問 27 LGBT（性的少数者）の人権を守るために、必要なことはどのようなことだと思いますか。次の中から3つ選んでください。（複数回答）

#### 【設問の趣旨】

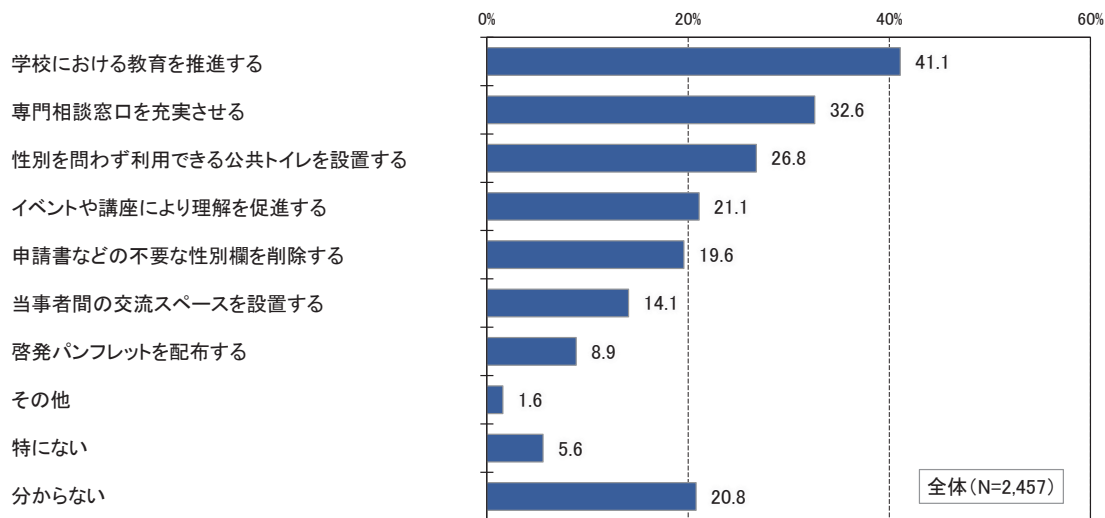
性的指向や性自認に関する市民の理解を一層深め、差別や偏見を解消するため、北九州市では講演会やラジオ番組、啓発資料の提供などを通じて啓発を推進するほか、企業との連携、職員研修等も進め、だれもが生活しやすい環境作りを目指している。

この設問は、LGBT（性的少数者）の人権を守るために必要なことをたずね、市民がどう取り組むべきと考えているのか知るためのものである。

#### 【全体】

LGBT（性的少数者）の人権を守るために必要だと思うことについてたずねたところ、全体では「学校における教育を推進する」をあげた人の割合が41.1%で最も高く、次いで「専門相談窓口を充実させる」(32.6%)、「性別を問わず利用できる公共トイレを設置する」(26.8%)、「イベントや講座により理解を促進する」(21.1%)、「申請書などの不要な性別欄を削除する」(19.6%)などの順となっている。なお、「特にない」と答えた人は5.6%、「分からない」と答えた人は20.8%となっている。

図表 2-76 LGBT（性的少数者）の人権を守るために必要だと思うこと



#### 【性・年齢別】

性別にみると、全体の傾向と同じく男女いずれも「学校における教育を推進する」(男性 39.3%、女性 42.9%) が最も高く、次いで「専門相談窓口を充実させる」(男性 32.0%、女性 33.8%) の順となっている。なお、「性別を問わず利用できる公共トイレを設置する」(男性 22.1%、女性 30.3%) は女性の方が男性よりも 8.2 ポイント上回っているほか、「申請書などの不要な性別欄を削除する」(男性 16.3%、女性 21.4%) も女性の方が男性よりも 5.1 ポイント上回っている。年齢別にみると、男性は 50 代までは「学校における教育を推進する」が最も高く、60～69 歳、70 歳以上は「専門相談窓口を充実させる」が最も高くなっている。一方、女性は 50 代までは「学校における教育

を推進する」が最も高くなっているものの、20～29歳は「性別を問わず利用できる公共トイレを設置する」が50.0%と、他の年齢に比べて高くなっている。女性60～69歳と70歳以上は「専門相談窓口を充実させる」が最も高くなっている。なお、男女とも60～69歳と70歳以上で「分からない」と答えた人の割合が2割以上みられ、他の年齢に比べて高くなっている。

#### 【居住年数別】

居住年数別にみると、いずれも全体の傾向と同じく「学校における教育を推進する」が最も高くなっているものの、20年以上は他に比べて割合が低い。また、20年以上は「分からない」人が22.1%と、他に比べて高くなっている。

#### 【居住地区別】

居住地区別にみると、門司区を除いて「学校における教育を推進する」が最も高くなっている。なお、門司区は「専門相談窓口を充実させる」(38.3%)が最も高く、次いで「学校における教育を推進する」(35.7%)の順となっている。

図表 2-77 LGBT（性的少数者）の人権を守るために必要だと思うこと  
(性・年齢別、居住年数別、居住地区別)

単位：%	サンプル数	学校における教育を推進	専門相談窓口を充実させる	性別を問わず利用できる公共トイレを設置する	イベントや講座により理解を促進する	申請書などの不要な性別欄を削除する	当事者間の交流スペースを設置する	啓発パンフレットを配布	その他	特にな	分からない	無回答	
全体	2,457	41.1	32.6	26.8	21.1	19.6	14.1	8.9	1.6	5.6	20.8	2.8	
性・年齢別	男性全体	979	39.3	32.0	22.1	22.4	16.3	14.9	10.8	1.3	8.5	20.7	3.3
	20～29歳	77	55.8	24.7	31.2	22.1	18.2	23.4	6.5	2.6	2.6	14.3	1.3
	30～39歳	77	51.9	24.7	29.9	20.8	22.1	20.8	10.4	2.6	7.8	9.1	-
	40～49歳	155	52.3	35.5	31.0	21.3	21.3	14.2	10.3	1.3	9.0	14.2	2.6
	50～59歳	173	43.4	29.5	26.0	23.1	19.1	20.8	10.4	2.3	5.8	17.3	1.7
	60～69歳	271	32.1	33.6	15.9	23.2	14.0	13.3	11.1	0.7	8.9	26.2	3.7
	70歳以上	222	25.2	34.2	14.9	22.1	11.3	8.1	12.6	0.5	12.2	27.9	5.9
	女性全体	1,418	42.9	33.8	30.3	20.5	21.4	13.8	7.6	1.7	3.5	20.7	2.3
	20～29歳	116	54.3	30.2	50.0	19.8	25.0	19.8	4.3	5.2	0.9	14.7	-
	30～39歳	156	60.3	28.2	41.7	21.8	25.0	19.2	6.4	1.9	0.6	11.5	1.3
	40～49歳	248	60.9	32.7	32.7	23.4	27.0	16.1	7.7	2.4	2.4	9.7	1.6
	50～59歳	250	46.8	34.4	31.6	26.8	25.2	14.0	10.4	2.0	3.2	14.0	1.6
60～69歳	318	34.9	38.7	27.0	20.1	18.2	12.6	8.5	0.6	3.5	24.2	1.9	
70歳以上	321	21.5	33.3	18.1	13.4	14.3	7.8	6.5	0.6	6.9	37.7	5.0	
居住年数別	3年未満	81	58.0	27.2	23.5	23.5	22.2	21.0	11.1	1.2	3.7	13.6	-
	3～5年未満	46	65.2	43.5	21.7	19.6	23.9	17.4	10.9	2.2	4.3	8.7	2.2
	5～10年未満	92	53.3	30.4	30.4	18.5	26.1	15.2	9.8	3.3	4.3	13.0	-
	10～20年未満	206	51.0	36.4	34.5	25.7	23.8	18.9	6.3	1.9	1.5	16.5	1.5
	20年以上	2,002	38.5	32.6	26.2	20.7	18.6	13.3	9.0	1.5	6.1	22.1	3.1
居住地区別	門司区	235	35.7	38.3	25.5	21.7	17.4	14.0	11.1	0.9	5.1	23.4	2.6
	小倉北区	458	42.8	30.3	28.4	21.8	21.4	15.9	7.2	2.4	4.8	19.9	2.4
	小倉南区	517	40.0	32.5	26.3	19.7	19.3	13.7	8.1	1.7	6.0	21.1	2.9
	若松区	222	39.6	29.3	22.1	19.4	21.2	10.4	9.0	1.8	6.8	24.8	2.3
	八幡東区	183	44.3	34.4	30.6	21.3	14.2	14.8	8.7	2.2	7.7	20.8	1.6
	八幡西区	645	43.7	33.5	27.1	22.5	21.2	14.1	10.1	1.1	5.4	18.3	3.6
	戸畑区	145	36.6	33.1	29.0	18.6	15.2	13.1	8.3	0.7	4.8	23.4	2.1

## 11 人権に関する学習や情報について

### 1. 市が行っている人権に関する啓発活動の認知状況

問 28 あなたは、現在、北九州市が行っている次のような人権に関する啓発活動を知っていますか。（複数回答）

#### 【設問の趣旨】

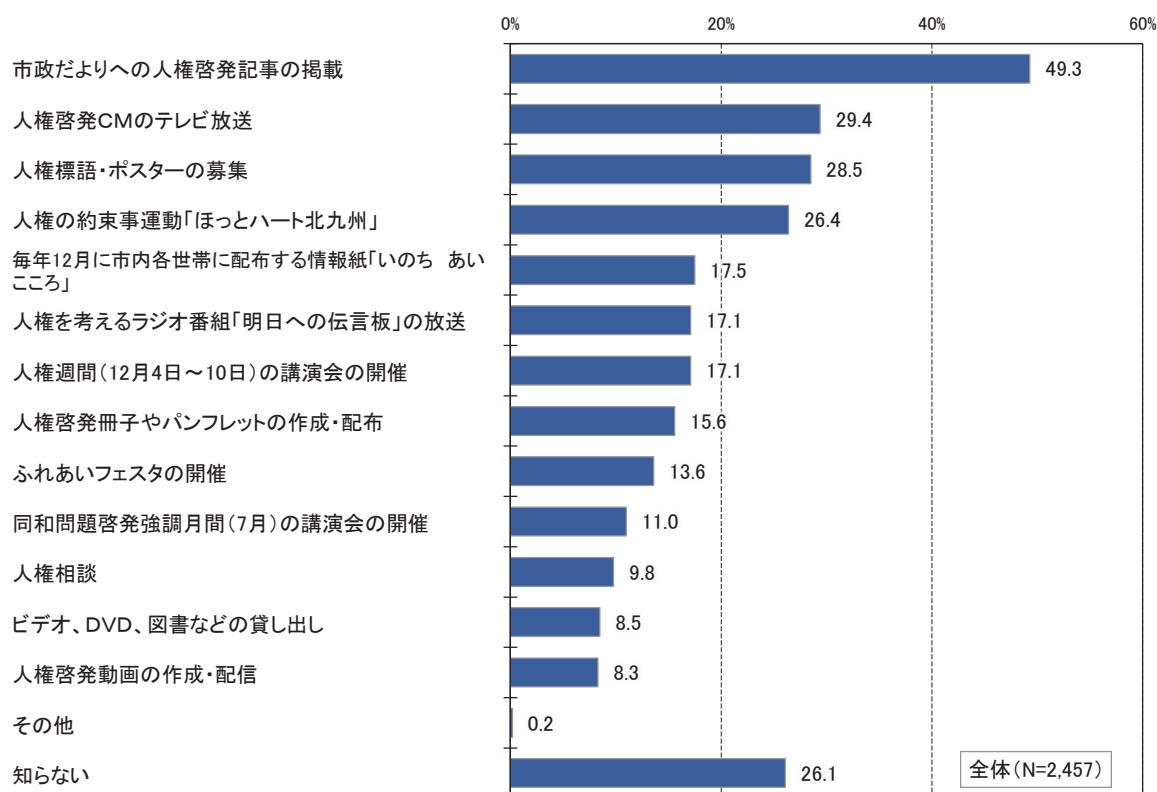
北九州市では、人権問題についての正しい理解と認識を深め、人権意識の高揚を図るための様々な啓発活動を行っている。

その啓発内容は、市政だよりの人権啓発記事やテレビ・ラジオなどを利用したものから、講演会やイベントの開催、啓発冊子の配布など多岐にわたっている。ここでは、そういった啓発活動の認知度を問う。

#### 【全体】

市が行っている人権に関する啓発活動の認知状況についてみると、全体では「市政だよりへの人権啓発記事の掲載」をあげた人の割合が49.3%で最も高く、他に比べて抜きん出ている。以下、「人権啓発CMのテレビ放送」(29.4%)、「人権標語・ポスターの募集」(28.5%)、「人権の約束事運動「ほっとハート北九州」」(26.4%)と続く。なお、「知らない」と答えた人は26.1%となっている。

図表 2-78 市が行っている人権に関する啓発活動の認知状況



#### 【性・年齢別】

性別にみると、男女いずれも「市政だよりへの人権啓発記事の掲載」(男性 45.6%、女性 52.5%)

が最も高く、他に比べて抜きん出ている。なお、「市政だよりへの人権啓発記事の掲載」のほか、「人権啓発CMのテレビ放送」(男性 25.8%、女性 32.2%)、「人権標語・ポスターの募集」(男性 25.2%、女性 31.4%)、「人権の約束事運動「ほっとハート北九州」」(男性 21.6%、女性 29.9%)、「毎年12月に市内各世帯に配布する情報紙「いのち あい ところ」」(男性 13.2%、女性 20.8%)などはいずれも女性の方が男性よりも割合が高くなっている。一方、「知らない」と答えた人は男性(30.8%)の方が女性(22.1%)よりも8.7ポイント上回っている。年齢別にみると、「市政だよりへの人権啓発記事の掲載」は、男女いずれも年齢が高い方が割合は高くなる傾向がみられる。なお、男性20～29歳と30～39歳は「知らない」人が5割を占めて、他の年齢よりも高いほか、女性も20～29歳と30～39歳は「知らない」人の割合が他の年齢よりも高くなっている。

【居住年数別】

居住年数別にみると、「市政だよりへの人権啓発記事の掲載」は、居住年数が長い方が割合は高くなる一方で、「知らない」人の割合は居住年数が短い方が高い傾向がみられる。

【居住地区別】

居住地区別にみると、いずれの区も全体の傾向と同じく「市政だよりへの人権啓発記事の掲載」が最も高くなっている。

図表 2-79 市が行っている人権に関する啓発活動の認知状況（性・年齢別、居住年数別、居住地区別）

単位：%	サンプル数	市政だよりへの人権啓発記事の掲載	送人権啓発CMのテレビ放送	集人権標語・ポスターの募集	と人権の約束事運動「ほっとハート北九州」	あいする情報紙「いのち あい ところ」	毎年12月に市内各世帯に配布する情報紙「いのち あい ところ」	送人権啓発CMのテレビ放送	10日間の講演会の開催	人権啓発冊子やパンフレットの作成・配布	ふれあいフェスタの開催	同和問題啓発強調月間(7月)の講演会の開催	人権相談	ビデオ、DVD、図書などの貸し出し	人権啓発動画の作成・配信	その他	知らない	無回答
全体	2,457	49.3	29.4	28.5	26.4	17.5	17.1	17.1	15.6	13.6	11.0	9.8	8.5	8.3	0.2	26.1	3.1	
性・年齢別	男性全体	979	45.6	25.8	25.2	21.6	13.2	19.9	17.4	14.9	11.4	11.1	11.0	8.9	8.9	-	30.8	2.9
	20～29歳	77	11.7	15.6	16.9	9.1	2.6	9.1	3.9	3.9	3.9	-	5.2	7.8	3.9	-	55.8	3.9
	30～39歳	77	28.6	13.0	19.5	15.6	9.1	3.9	10.4	9.1	11.7	5.2	6.5	7.8	1.3	-	50.6	-
	40～49歳	155	38.1	23.2	23.9	23.2	7.7	20.0	14.8	14.8	14.2	9.7	10.3	11.0	12.9	-	35.5	1.9
	50～59歳	173	49.1	32.4	32.4	22.5	10.4	27.7	20.8	15.6	11.0	12.1	9.8	11.6	11.6	-	23.7	2.3
	60～69歳	271	50.9	32.8	28.0	21.0	12.5	22.1	20.3	17.0	10.7	13.3	12.9	9.6	10.7	-	26.9	2.2
	70歳以上	222	59.9	21.6	22.5	26.6	25.2	19.8	18.5	18.0	13.5	14.4	14.0	5.4	5.9	-	23.0	5.0
	女性全体	1,418	52.5	32.2	31.4	29.9	20.8	15.7	17.3	16.4	15.2	11.1	8.9	8.3	8.0	0.3	22.1	3.0
	20～29歳	116	25.0	18.1	37.9	24.1	7.8	16.4	10.3	6.9	13.8	2.6	6.0	8.6	1.7	0.9	36.2	0.9
	30～39歳	156	33.3	18.6	26.3	21.8	7.7	8.3	14.7	9.0	8.3	9.0	7.1	10.9	3.8	0.6	40.4	1.3
	40～49歳	248	45.6	27.4	37.1	37.9	11.3	18.5	19.0	12.9	16.5	10.9	9.7	10.9	8.1	-	22.6	1.6
50～59歳	250	58.0	38.4	42.8	30.4	20.0	22.8	23.6	18.0	14.8	12.0	8.4	8.4	10.8	-	20.4	1.2	
60～69歳	318	66.0	47.2	30.2	32.4	30.5	17.6	19.5	24.2	18.2	16.0	11.0	8.8	11.6	0.6	12.9	1.6	
70歳以上	321	59.5	27.7	19.9	27.1	30.2	8.7	13.1	17.8	15.6	10.0	8.7	3.7	6.5	-	18.1	8.7	
居住年数別	3年未満	81	21.0	12.3	9.9	4.9	1.2	-	3.7	2.5	1.2	-	4.9	4.9	4.9	1.2	65.4	-
	3～5年未満	46	28.3	17.4	21.7	10.9	4.3	2.2	4.3	8.7	2.2	6.5	4.3	2.2	-	-	54.3	-
	5～10年未満	92	37.0	15.2	18.5	15.2	5.4	8.7	4.3	10.9	8.7	5.4	5.4	3.3	1.1	-	44.6	1.1
	10～20年未満	206	41.3	23.3	27.7	28.6	14.6	16.5	17.0	11.7	18.4	8.3	12.6	11.2	7.8	0.5	27.2	3.4
	20年以上	2,002	52.7	31.9	30.3	28.0	19.5	18.8	18.8	17.1	14.2	12.2	10.1	8.8	9.0	0.1	22.6	3.2
居住地区別	門司区	235	48.9	34.5	34.0	31.9	19.6	19.6	19.1	20.0	16.6	11.5	12.8	11.1	9.8	-	21.7	1.7
	小倉北区	458	49.1	29.3	26.9	23.6	15.1	14.8	16.8	15.1	16.2	11.6	12.2	9.2	9.8	0.4	27.5	2.6
	小倉南区	517	47.2	26.5	27.5	26.3	15.9	16.1	18.0	14.5	11.4	11.2	10.6	9.3	7.4	0.2	25.1	4.3
	若松区	222	53.2	30.2	24.8	27.0	19.4	23.4	14.4	13.1	10.4	7.7	9.0	7.7	6.8	-	24.8	3.6
	八幡東区	183	53.0	32.8	33.3	23.5	21.9	16.9	20.8	16.9	14.8	10.9	8.7	10.9	9.3	-	25.1	1.6
	八幡西区	645	51.6	30.1	30.5	28.2	18.9	17.2	16.9	17.2	13.8	12.1	9.1	7.0	7.9	-	27.0	2.8
	戸畑区	145	44.1	26.2	24.1	22.8	16.6	15.9	16.6	12.4	12.4	9.0	2.8	5.5	7.6	0.7	26.9	3.4



## 2. 市が行っている人権に関する啓発活動の認知経路

問 29 問 28 のいろいろな人権に関する啓発活動の情報をどこから得ていますか。(複数回答)

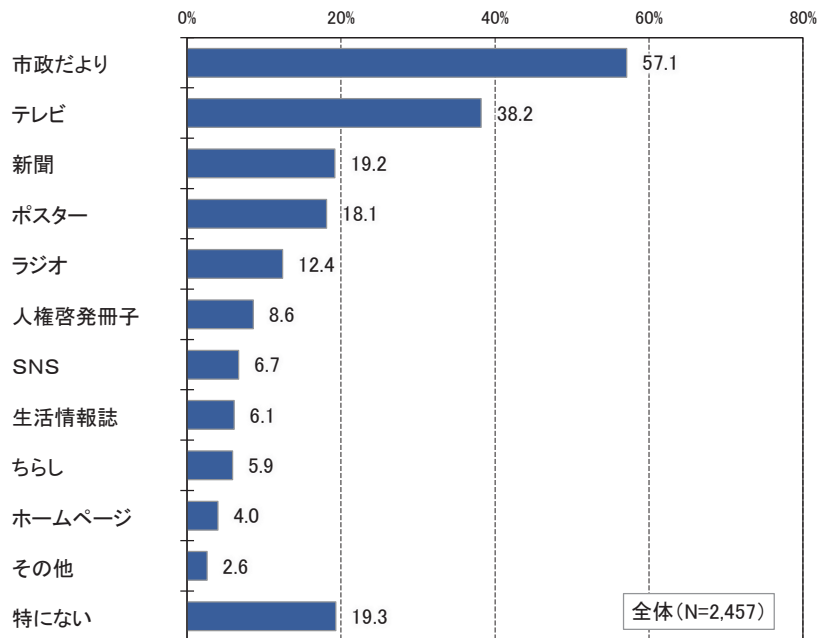
### 【設問の趣旨】

前問(問 28)では、様々な啓発活動に対する市民の認知度をみた。それらの啓発活動の認知経路をたずねることで、啓発活動の周知に有効な経路を知るための設問である。

### 【全体】

市が行っている人権に関する啓発活動の認知経路についてみると、全体では「市政だより」をあげた人の割合が 57.1%で最も高く、他に比べて抜きん出ている。以下、「テレビ」(38.2%)、「新聞」(19.2%)、「ポスター」(18.1%)と続く。なお、「特にない」と答えた人は 19.3%となっている。

図表 2-81 市が行っている人権に関する啓発活動の認知経路



### 【性・年齢別】

性別にみると、男女いずれも「市政だより」(男性 53.1%、女性 60.8%)が最も高く、他に比べて抜きん出ているものの、女性の方が男性よりも 7.7 ポイント上回っている。年齢別にみると、「市政だより」は、男女いずれも年齢が高い方が割合は高くなる傾向がみられる。なお、男女とも 20～29 歳と 30～39 歳は「特にない」人が 3 割を超えて、他の年齢よりも高くなっている。

### 【居住年数別】

居住年数別にみると、「市政だより」は、居住年数が長い方が割合は高くなる一方で、「特にない」人の割合は居住年数が短い方が高い傾向がみられる。

### 【居住地区別】

居住地区別にみると、いずれの区も全体の傾向と同じく「市政だより」が最も高くなっている。

図表 2-82 市が行っている人権に関する啓発活動の認知経路（性・年齢別、居住年数別、居住地区別）

単位：%		サンプル数	市政だより	テレビ	新聞	ポスター	ラジオ	人権啓発冊子	SNS	生活情報誌	ちらし	ホームページ	その他	特にない	無回答
全体		2,457	57.1	38.2	19.2	18.1	12.4	8.6	6.7	6.1	5.9	4.0	2.6	19.3	5.1
性・年齢別	男性全体	979	53.1	36.8	20.1	17.0	15.6	7.4	7.4	5.2	4.6	5.6	1.8	21.6	4.2
	20～29歳	77	11.7	33.8	1.3	11.7	7.8	-	29.9	-	-	2.6	3.9	33.8	5.2
	30～39歳	77	39.0	29.9	10.4	16.9	5.2	1.3	16.9	2.6	3.9	10.4	2.6	35.1	-
	40～49歳	155	45.8	28.4	11.6	17.4	15.5	5.2	7.7	5.2	8.4	8.4	1.3	28.4	3.2
	50～59歳	173	50.9	41.0	15.6	19.1	19.7	8.7	5.8	2.3	4.0	5.8	4.0	17.3	5.2
	60～69歳	271	60.9	41.3	24.7	15.9	15.1	8.9	4.1	5.2	3.3	4.8	1.1	18.1	4.8
	70歳以上	222	70.7	36.9	34.2	18.5	18.9	10.8	1.4	10.4	5.9	4.1	0.5	15.8	4.1
	女性全体	1,418	60.8	39.6	18.5	19.0	10.3	9.6	6.3	7.0	7.0	3.0	3.2	17.1	5.4
	20～29歳	116	19.0	31.0	0.9	19.0	6.9	0.9	21.6	3.4	3.4	1.7	8.6	35.3	2.6
	30～39歳	156	40.4	24.4	5.8	14.7	4.5	3.8	12.2	3.8	5.8	7.1	3.8	34.0	6.4
	40～49歳	248	56.0	33.9	11.3	20.2	10.1	5.6	6.0	6.0	8.9	3.6	4.0	19.0	4.8
50～59歳	250	68.4	45.2	18.8	23.6	14.0	10.4	7.6	8.8	10.8	4.0	3.2	11.2	3.6	
60～69歳	318	76.1	53.8	24.8	18.6	11.0	15.1	2.5	10.4	6.0	2.5	1.9	10.1	3.5	
70歳以上	321	68.2	35.2	30.2	16.5	10.9	12.8	0.6	5.9	5.0	0.9	1.6	12.8	10.0	
居住年数別	3年未満	81	22.2	34.6	6.2	6.2	4.9	-	21.0	1.2	2.5	7.4	2.5	37.0	6.2
	3～5年未満	46	26.1	26.1	6.5	10.9	8.7	6.5	6.5	-	4.3	-	2.2	37.0	4.3
	5～10年未満	92	39.1	21.7	8.7	13.0	6.5	3.3	8.7	4.3	7.6	5.4	2.2	38.0	4.3
	10～20年未満	206	50.0	31.1	13.1	16.0	11.2	2.9	8.3	4.4	6.3	4.9	5.3	19.4	6.3
	20年以上	2,002	61.3	40.4	21.2	19.3	13.2	9.9	6.0	6.8	6.0	3.8	2.4	16.9	4.9
居住地区別	門司区	235	60.4	42.6	19.1	20.9	15.7	10.6	5.1	5.5	6.0	4.3	3.8	17.0	4.7
	小倉北区	458	54.4	41.0	17.5	17.9	12.0	8.7	6.1	6.8	5.2	4.4	2.4	21.8	3.7
	小倉南区	517	59.4	31.7	21.5	17.6	11.4	7.2	6.6	7.2	6.4	3.9	2.9	18.2	6.0
	若松区	222	60.4	39.6	21.6	17.6	14.9	6.3	6.3	6.3	7.2	1.8	1.4	18.0	4.5
	八幡東区	183	59.6	43.2	21.3	18.6	8.2	8.7	6.0	4.4	7.7	7.1	1.6	16.4	4.4
	八幡西区	645	58.0	39.1	17.8	18.8	12.7	10.1	7.6	5.9	5.9	4.2	2.8	19.7	4.8
	戸畑区	145	49.0	35.9	16.6	13.8	13.1	8.3	9.7	4.8	1.4	2.8	2.1	18.6	9.0



【人権問題への関心度別】

人権問題への関心度別にみると、『関心がある』派、『関心がない』派の男女いずれも「市政だより」が最も高くなっているものの、割合は男女ともに『関心がある』派の方が『関心がない』派よりも上回っている。なお、「特にない」と答えた人の割合は『関心がない』派の方が『関心がある』派よりも高く、男性が39.6%、女性は34.4%を占めている。

図表 2-83 市が行っている人権に関する啓発活動の認知経路（人権問題への関心度別）

単位：%		サンプル数	市政だより	テレビ	新聞	ポスター	ラジオ	人権啓発冊子	SNS	生活情報誌	ちらし	ホームページ	その他	特にない	無回答
全体		2,457	57.1	38.2	19.2	18.1	12.4	8.6	6.7	6.1	5.9	4.0	2.6	19.3	5.1
人権問題への関心度別	関心がある	1,909	62.3	41.6	21.4	20.1	12.7	10.6	7.2	6.7	6.8	4.7	2.8	14.6	4.4
	男性	726	59.6	40.6	22.2	19.0	15.7	9.4	7.7	5.2	5.4	6.6	1.9	15.6	3.7
	女性	1,140	65.1	42.6	20.9	21.1	10.9	11.4	6.9	7.8	7.9	3.6	3.4	13.4	4.4
	その他	6	33.3	33.3	16.7	16.7	-	-	-	-	-	-	-	33.3	16.7
	関心がない	514	38.7	25.3	10.9	11.1	11.1	1.6	5.3	4.5	2.9	1.8	2.1	37.4	6.0
	男性	245	34.3	25.7	13.1	11.0	14.7	1.6	6.5	5.3	2.0	2.9	1.6	39.6	4.5
	女性	253	43.1	25.3	9.1	10.7	7.9	1.6	4.0	3.6	3.6	0.8	2.8	34.4	7.9
	その他	4	25.0	50.0	-	25.0	25.0	-	25.0	-	-	-	-	-	50.0

### 3. 市が行っている人権に関する啓発活動への参加経験

問 30 北九州市が行っている次のような人権に関する啓発活動について、あなたが実際に参加したり、読んだり、視聴したりした経験があるものはどれですか。（複数回答）

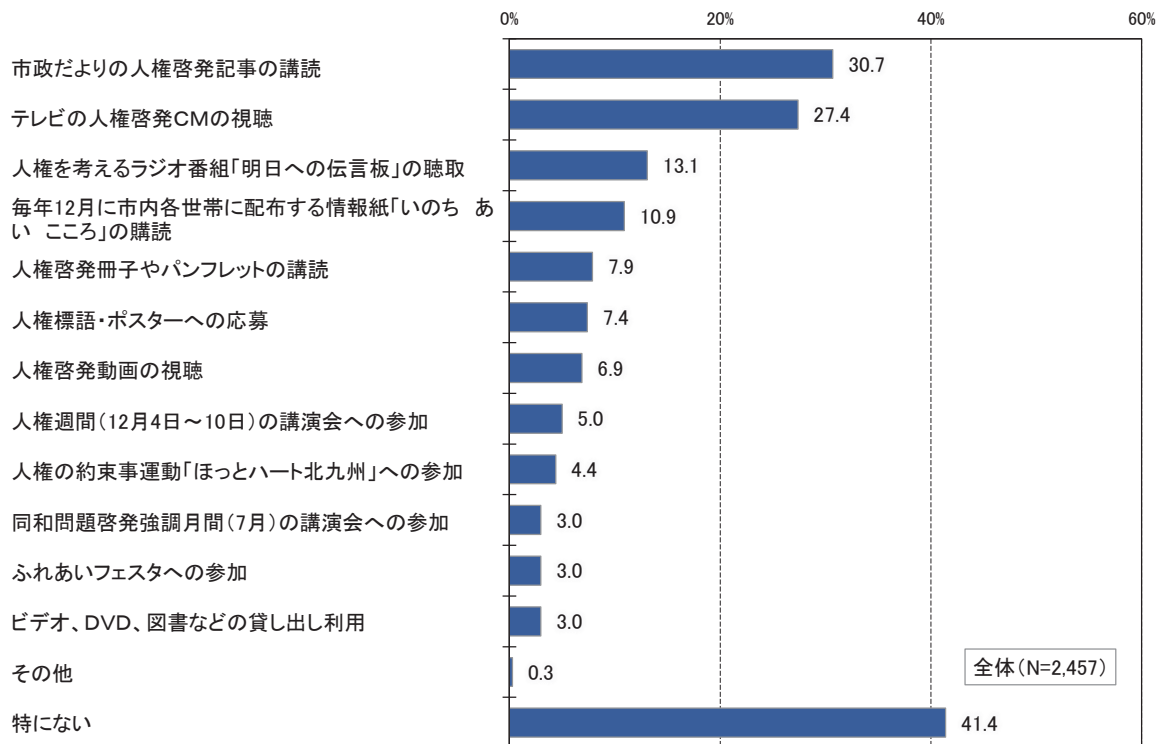
**【設問の趣旨】**

人権に関する啓発活動への参加経験と市民の意識のかかわりをみるための設問である。

**【全体】**

市が行っている人権に関する啓発活動への参加経験についてみると、全体では「市政だよりの人権啓発記事の講読」をあげた人の割合が 30.7%で最も高く、次いで「テレビの人権啓発CMの視聴」（27.4%）の順で、この2項目が他に比べて高くなっている。なお、「特にない」と答えた人は 41.4%で、全体の4割を占めている。

図表 2-84 市が行っている人権に関する啓発活動への参加経験



**【性・年齢別】**

性別にみると、全体の傾向と同じく男女いずれも「市政だよりの人権啓発記事の講読」（男性 28.5%、女性 32.8%）が最も高く、次いで「テレビの人権啓発CMの視聴」（男性 25.1%、女性 29.4%）の順となっている。なお、「特にない」と答えた人は男性が 46.1%、女性は 37.2%を占めている。年齢別にみると、「市政だよりの人権啓発記事の講読」は、男女いずれも年齢が高い方が割合は高い。また、「テレビの人権啓発CMの視聴」も年齢が高い方が割合は高い傾向がみられる。なお、男性 20～29 歳と 30～39 歳は「特にない」人が 7 割程度を占め、他の年齢よりも高いほか、女性も 20～29 歳と 30～39 歳は「特にない」人の割合が他の年齢よりも高くなっている。

【居住年数別】

居住年数別にみると、「市政だよりの人権啓発記事の講読」と「テレビの人権啓発CMの視聴」は、居住年数が長い方が割合は高くなる一方で、「特にない」人の割合は居住年数が短い方が高い傾向がみられる。

【居住地区別】

居住地区別にみると、順位は異なるものの、いずれの区も全体の傾向と同じく「市政だよりの人権啓発記事の講読」と「テレビの人権啓発CMの視聴」が最も高くなっている。

図表 2-85 市が行っている人権に関する啓発活動への参加経験（性・年齢別、居住年数別、居住地区別）

単位：%		サンプル数	市政だよりの人権啓発記事の講読	テレビの人権啓発CMの視聴	「人権を考えるラジカセ番組取組」の視聴	「布する情報紙」の購読	毎年12月に市内各世帯に配布する「人権啓発冊子やパンフレットの講読」	人権啓発動画の視聴	人権標語・ポスターへの応募	人権啓発映画の視聴	10日間の講演会への参加	人権週間（12月4日～10日）の講演会への参加	人権の約束事運動「ほつとハート北九州」への参加	同和問題啓発強調月間（7月）の講演会への参加	ふれあいフェスタへの参加	ビデオ、DVD、図書などの貸し出し利用	その他	特にない	無回答
全体		2,457	30.7	27.4	13.1	10.9	7.9	7.4	6.9	5.0	4.4	3.0	3.0	3.0	0.3	41.4	4.1		
性・年齢別	男性全体	979	28.5	25.1	15.8	8.8	7.0	6.5	6.9	5.2	4.3	3.2	2.7	3.6	0.6	46.1	3.7		
	20～29歳	77	3.9	9.1	7.8	2.6	1.3	10.4	-	2.6	1.3	1.3	1.3	1.3	-	71.4	3.9		
	30～39歳	77	15.6	15.6	3.9	3.9	2.6	11.7	-	-	2.6	-	1.3	3.9	-	68.8	-		
	40～49歳	155	21.9	20.0	16.1	3.9	5.2	6.5	6.5	3.9	5.8	1.9	3.9	7.1	1.3	47.1	3.2		
	50～59歳	173	29.5	35.3	25.4	5.8	8.7	8.1	12.1	6.9	6.4	5.2	2.3	4.0	0.6	38.2	3.5		
	60～69歳	271	34.3	29.9	14.0	9.2	8.5	5.5	8.9	7.4	3.3	4.4	2.2	2.6	0.7	42.8	3.0		
	70歳以上	222	38.7	23.9	16.7	18.0	9.0	3.6	5.9	5.0	4.5	2.7	3.6	2.7	0.5	39.2	5.9		
	女性全体	1,418	32.8	29.4	11.6	12.6	8.6	8.2	7.1	4.9	4.7	2.9	3.2	2.8	0.1	37.2	4.3		
	20～29歳	116	13.8	19.0	11.2	3.4	1.7	21.6	1.7	3.4	6.0	-	2.6	5.2	0.9	49.1	0.9		
	30～39歳	156	19.9	19.9	7.1	3.2	5.1	10.3	3.8	0.6	5.8	1.3	-	2.6	-	52.6	3.2		
40～49歳	248	23.8	24.6	12.9	4.4	6.9	10.1	4.8	5.2	5.2	1.6	2.8	3.6	-	44.4	2.4			
50～59歳	250	36.4	35.2	14.8	10.8	10.4	8.8	8.8	5.2	3.6	3.2	4.0	2.8	-	35.2	4.0			
60～69歳	318	43.4	42.5	12.9	21.1	12.3	4.1	12.9	5.7	4.1	4.4	3.5	3.1	-	27.0	4.4			
70歳以上	321	39.6	24.0	9.0	19.3	9.3	4.7	5.0	6.2	4.7	4.0	4.4	0.3	0.3	31.5	7.8			
居住年数別	3年未満	81	8.6	12.3	-	-	1.2	3.7	1.2	-	-	-	1.2	2.5	-	76.5	1.2		
	3～5年未満	46	13.0	15.2	2.2	2.2	-	-	-	-	4.3	-	-	-	-	69.6	-		
	5～10年未満	92	25.0	8.7	8.7	2.2	3.3	6.5	2.2	2.2	5.4	2.2	1.1	-	-	60.9	2.2		
	10～20年未満	206	22.3	22.8	11.2	6.3	5.8	8.7	6.3	5.8	4.9	2.9	1.5	4.4	0.5	45.1	5.8		
	20年以上	2,002	33.5	29.9	14.4	12.6	8.9	7.7	7.6	5.4	4.6	3.3	3.4	3.1	0.3	37.6	4.1		
居住地区別	門司区	235	30.6	31.1	14.0	12.8	12.3	10.6	8.5	6.8	7.7	3.4	2.6	3.8	0.9	37.4	3.8		
	小倉北区	458	29.3	28.2	10.5	8.1	8.1	6.3	6.6	4.1	3.7	3.9	2.0	3.3	0.2	42.4	5.2		
	小倉南区	517	28.4	25.5	11.8	9.3	7.5	6.2	7.2	6.0	4.8	3.9	3.9	3.7	0.8	41.6	4.4		
	若松区	222	34.2	29.7	17.1	11.3	4.1	5.9	6.8	3.6	2.7	1.4	2.3	3.2	-	39.6	4.5		
	八幡東区	183	33.9	29.0	12.0	15.3	6.6	6.6	6.6	4.4	4.9	1.6	4.9	2.2	-	40.4	3.3		
	八幡西区	645	32.1	26.2	14.9	12.6	8.8	8.8	7.0	5.4	5.0	3.1	3.3	2.5	0.2	42.6	2.8		
	戸畑区	145	31.7	25.5	12.4	11.7	7.6	8.3	6.2	3.4	0.7	1.4	2.1	2.1	-	40.7	4.8		

【人権問題への関心度別】

人権問題への関心度別にみると、『関心がある』派は男女いずれも「市政だよりの人権啓発記事の講読」（男性 32.4%、女性 36.1%）が最も高く、次いで「テレビの人権啓発CMの視聴」（男性 28.9%、女性 32.2%）の順となっている。なお、割合は男女ともに『関心がある』派の方が『関心がない』派よりも上回っている。一方、「特にない」と答えた人の割合は『関心がない』派の方が『関心がある』派よりも高く、男性が 66.5%、女性は 56.9%を占めている。

図表 2-86 市が行っている人権に関する啓発活動への参加経験（人権問題への関心度別）

単位：%		サンプル数	市政だよりの人権啓発記事の講読	テレビの人権啓発CMの視聴	「明日を考えるラジオ番組」の聴取	「人権を考えるラジオ番組」の購読	「布すろ」の購読	毎年12月に市内各世帯に配布する情報紙「いのちのあ配」	人権啓発冊子やパンフレットの講読	人権標語・ポスターへの応募	人権啓発動画の視聴	10日間の講演会への参加	人権週間（12月4日～10日）の講演会への参加	人権の約束事運動「ほつとハート北九州」への参加	同和問題啓発強調月間（7月）の講演会への参加	ふれあいフェスタへの参加	ビデオ、DVD、図書などの貸し出し利用	その他	特にない	無回答
全体		2,457	30.7	27.4	13.1	10.9	7.9	7.4	6.9	5.0	4.4	3.0	3.0	3.0	0.3	41.4	4.1			
人権問題への関心度別	関心がある	1,909	34.3	30.7	14.5	12.6	9.5	8.0	8.2	5.9	5.1	3.4	3.4	3.7	0.4	36.2	3.6			
	男性	726	32.4	28.9	17.6	10.7	8.4	7.0	8.4	6.5	5.1	3.4	2.9	4.4	0.8	39.4	3.6			
	女性	1,140	36.1	32.2	12.7	13.9	10.3	8.9	8.3	5.4	5.3	3.3	3.7	3.3	0.2	33.3	3.4			
	その他	6	33.3	16.7	16.7	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66.7	-		
	関心がない	514	18.3	14.4	8.0	4.1	2.5	5.4	2.1	1.9	2.1	1.6	1.4	0.8	-	62.3	3.7			
	男性	245	17.6	13.9	10.2	2.4	3.3	5.3	2.9	1.6	2.0	2.4	1.6	1.2	-	66.5	2.4			
	女性	253	19.4	15.4	6.3	5.9	2.0	5.9	1.6	2.4	2.4	0.8	1.2	0.4	-	56.9	5.1			
その他	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-			

#### 4. 「人権文化のまちづくり」の推進に必要な取り組み

問 31 人権の大切さを理解し、人権を尊重するという意識を高めて、「人権文化のまちづくり」を進めるためには、今後どのような取り組みを行えばよいと思いますか。次の中から3つ選んでください。(複数回答)

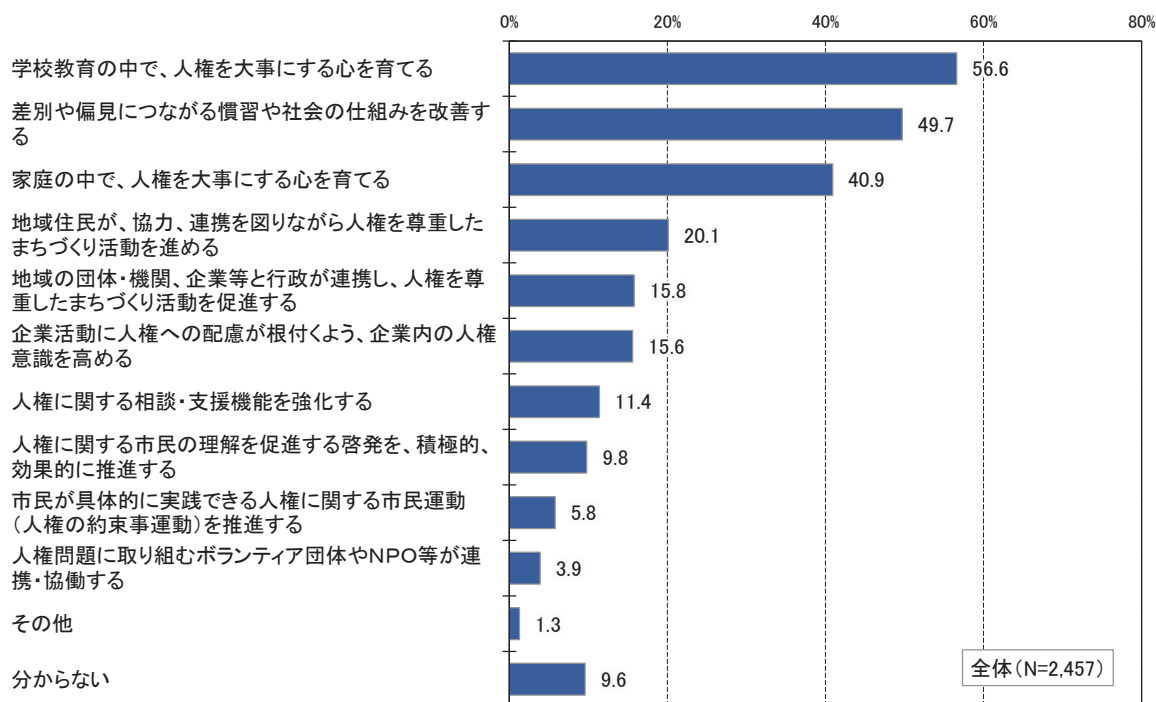
##### 【設問の趣旨】

北九州市では、平成 17 年（2005 年）11 月に「北九州市人権行政指針」を策定し、市民一人ひとりが人権尊重の精神を正しく身に付け、人権を尊重することが市民の日常生活の中で当たり前の行動として自然に表すことができる「人権文化のまちづくり」の推進に取り組んでいる。この「人権文化のまちづくり」を進めるために、どのような取り組みが必要と考えられているのか、市民の考えを問う設問である。

##### 【全体】

「人権文化のまちづくり」の推進に必要な取り組みについてたずねたところ、全体では「学校教育の中で、人権を大事にする心を育てる」をあげた人の割合が 56.6%で最も高く、次いで「差別や偏見につながる慣習や社会の仕組みを改善する」(49.7%)、「家庭の中で、人権を大事にする心を育てる」(40.9%) などの順となっている。なお「分からない」と答えた人は 9.6%となっている。

図表 2-87 「人権文化のまちづくり」の推進に必要な取り組み



##### 【性・年齢別】

性別にみると、男女いずれも「学校教育の中で、人権を大事にする心を育てる」(男性 55.1%、女性 58.5%) が最も高く、次いで「差別や偏見につながる慣習や社会の仕組みを改善する」(男性 48.2%、女性 51.0%)、「家庭の中で、人権を大事にする心を育てる」(男性 37.1%、女性 44.1%) の順となっているものの、「家庭の中で、人権を大事にする心を育てる」は女性の方が男性よりも

7.0 ポイント上回っている。年齢別にみると、男性は20～29歳を除いて「学校教育の中で、人権を大事にする心を育てる」が最も高くなっているが、男性20～29歳は「差別や偏見につながる慣習や社会の仕組みを改善する」(59.7%)が最も高く、次いで「学校教育の中で、人権を大事にする心を育てる」(50.6%)の順となっている。一方、女性はいずれの年齢も「学校教育の中で、人権を大事にする心を育てる」が最も高く、次いで「差別や偏見につながる慣習や社会の仕組みを改善する」の順となっている。

【居住年数別】

居住年数別にみると、いずれも全体の傾向と同じく「学校教育の中で、人権を大事にする心を育てる」が最も高く、次いで「差別や偏見につながる慣習や社会の仕組みを改善する」の順となっている。

【居住地区別】

居住地区別にみても、いずれの区も全体の傾向と同じく「学校教育の中で、人権を大事にする心を育てる」が最も高く、次いで「差別や偏見につながる慣習や社会の仕組みを改善する」の順となっている。

図表 2-88 「人権文化のまちづくり」の推進に必要な取り組み(性・年齢別、居住年数別、居住地区別)

単位:%	サンプル数	学校教育の中で、人権を大事にする心を育てる	差別や偏見につながる慣習や社会の仕組みを改善する	家庭の中で、人権を大事にする心を育てる	地域住民が、協力を進めながら活動を進める	地域の団体・機関、企業等と連携し、活動を促進する	地域の団体の活動を尊重し、連携を図る	企業活動に人権への配慮が根付くよう、企業内の人権意識を高める	人権に関する相談・支援機能強化	人権に関する市民の積極的効果	市民が具体的に実践できる人権に関する推進する	市民が具体的に実践できる人権に関する推進する	携・協働するNPO等が連	人権問題に取り組むボラ	その他	分からない	無回答
全体	2,457	56.6	49.7	40.9	20.1	15.8	15.6	11.4	9.8	5.8	3.9	1.3	9.6	3.4			
性・年齢別	男性全体	979	55.1	48.2	37.1	21.3	15.9	17.8	10.3	11.1	6.6	4.3	1.6	10.4	3.2		
	20～29歳	77	50.6	59.7	35.1	16.9	15.6	19.5	9.1	13.0	2.6	5.2	1.3	6.5	3.9		
	30～39歳	77	57.1	48.1	49.4	19.5	15.6	29.9	11.7	7.8	3.9	1.3	6.5	6.5	-		
	40～49歳	155	58.7	47.1	44.5	16.8	18.7	18.1	7.7	6.5	7.1	3.9	1.3	8.4	2.6		
	50～59歳	173	55.5	50.3	43.9	20.8	11.6	19.7	12.7	10.4	5.8	5.2	0.6	8.7	2.3		
	60～69歳	271	54.6	48.0	30.6	22.5	18.8	15.5	8.9	13.3	8.5	3.7	2.2	11.8	3.0		
	70歳以上	222	53.2	43.2	30.6	26.1	14.4	14.4	12.2	12.6	7.2	5.4	0.5	14.4	5.0		
	女性全体	1,418	58.5	51.0	44.1	19.3	16.1	14.3	12.1	8.9	5.2	3.5	0.9	8.5	3.3		
	20～29歳	116	59.5	52.6	35.3	17.2	26.7	21.6	18.1	7.8	5.2	8.6	-	7.8	0.9		
	30～39歳	156	65.4	59.0	42.9	13.5	10.3	18.6	9.6	10.9	3.8	2.6	1.3	8.3	1.9		
居住年数別	40～49歳	248	64.9	51.2	50.0	23.8	21.4	18.5	8.9	10.1	8.5	2.8	1.2	4.8	1.2		
	50～59歳	250	56.4	54.4	45.2	21.6	18.8	16.4	13.6	4.4	4.8	3.2	2.4	6.8	2.4		
	60～69歳	318	59.1	54.1	46.5	16.0	13.5	8.2	12.6	10.1	5.0	3.1	0.3	8.8	3.8		
	70歳以上	321	50.8	41.1	40.2	21.2	11.5	10.6	11.8	10.0	4.0	3.1	0.3	12.1	6.9		
	3年未満	81	55.6	49.4	30.9	19.8	17.3	21.0	9.9	7.4	4.9	4.9	2.5	16.0	1.2		
	3～5年未満	46	76.1	50.0	45.7	13.0	21.7	19.6	15.2	6.5	2.2	-	4.3	-	2.2		
居住地区別	5～10年未満	92	59.8	51.1	40.2	16.3	22.8	17.4	5.4	13.0	4.3	6.5	4.3	5.4	2.2		
	10～20年未満	206	57.3	56.8	46.1	17.0	17.0	15.5	11.2	9.7	3.9	5.3	1.0	7.3	3.9		
	20年以上	2,002	56.3	49.0	41.0	20.8	15.3	15.3	11.6	9.8	6.1	3.6	1.0	9.7	3.4		
	門司区	235	53.2	48.9	35.7	18.3	15.3	15.3	7.2	9.8	8.5	5.1	0.4	13.6	4.3		
小倉北区	458	58.7	48.9	40.2	19.0	18.3	17.0	12.7	10.9	5.0	3.5	2.2	7.9	3.7			
小倉南区	517	54.5	48.9	39.7	19.9	14.1	15.3	12.8	8.5	5.6	2.7	1.4	8.9	5.0			
若松区	222	52.7	46.4	43.2	22.5	14.9	12.6	9.9	11.3	10.4	5.4	0.5	11.3	2.7			
八幡東区	183	59.0	51.9	43.7	23.0	18.0	16.9	11.5	8.2	5.5	4.4	0.5	8.7	1.6			
八幡西区	645	59.2	51.6	43.3	20.9	15.8	15.8	11.8	10.2	5.1	4.2	1.4	7.9	2.0			
戸畑区	145	55.9	51.0	40.0	18.6	15.9	15.2	9.7	9.0	0.7	2.8	0.7	13.8	4.1			